

圖 情 錄 編

2008年度

講 義 計 画

桃山学院大学

講

義

計

画

科 目 名			
社会科・公民科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	飯 島 敏 文

【講義概要・学習目標】

授業の到達目標及びテーマ

中学校及び高等学校の教育が全体として子どもの人間的成長を支援するものであることをとらえるとともに、社会科・公民科の教育課程の意義と特徴を正しく理解し、教育課程編成の方法についての本質的理解を踏まえた社会科・公民科の学習指導計画の立案と授業実践ができるようになる。社会科・公民科教育課程の意義を反映した学習目標の設定、生徒理解、教材解釈と学習内容構成、学習活動の組織、及び正しい教育評価ができるような教師としての能力と資質を身につける。

授業の概要

本講義は通年の講義ですが、主として前期には中学校社会科に関する内容を扱い、後期に高等学校公民科に関する内容を扱うことを予定しています。通年にわたり、中学校及び高等学校の教育課程全体における社会科・公民科の意義と役割を意識しつつ、社会科や公民科に固有の教育課程の意義と特徴を理解すること、そしてその理解に基づいた教育課程編成のあり方を考えることができるように計画を立てています。

受講生の皆さんが社会科や公民科を中心とした学校教育課程の意義を十分に理解すること、社会科授業及び公民科授業の学習指導計画を作成し、授業実践ができる能力を身につけることを特に重視します。

教科教育の理論的包括的な諸問題について学ぶときも、各受講生の皆さんが学んでいる専門科学の内容を考えると、常に社会科・公民科の「授業」というレベルを意識していただきたいと思えます。教科教育の理論や所詮門科学についての正しい理解は必要です。しかしそれがそのまま直ちに授業を実践する能力に転化するわけではありません。

本講義は受講生の皆さんに実践的能力を身につけていただくことを重視した取り組みを行います。講義形式だけではなく、文献を読んで意見を発表したり、模擬授業を計画・実施することを通して、高等学校までの学校教育が何を指すものであるのかを考えつつ、社会科・公民科に対する理解を深め、同時に授業を実践する能力を身につけていただくことを目指します。なお、コンピュータ教室を活用し新しいメディアに親しむとともに、それを授業計画や授業実践に資することができるように講義を進めます。

【講義計画】

<前期15回分>

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等、シラバスを事前に読んでおくこと。）
- 第2回 中学校教育課程の意義の概説
- 第3回 社会科教育課程の意義1—学習指導要領から読み取ることができる社会科の特徴
- 第4回 社会科教育課程の意義2—社会科の理論的枠組みと主要な社会科プラン
- 第5回 社会科教育課程の意義3—社会科諸理論を反映した社会科授業の構想
- 第6回 社会科教育課程の意義4—社会科教育課程の変遷と社会科を意義づける諸要素
- 第7回 中学校教育課程編成の方法の概観—教育課程における社会科の位置づけと他教科との連携を軸に
- 第8回 社会科教育課程編成の方法1—社会科教育課程の意義を反映した社会科教育の方針
- 第9回 社会科教育課程編成の方法2—生徒及び地域・学校の実態を反映した社会科教育課程編成の方法
- 第10回 社会科教育課程編成の方法3—教材の選択及び学習活動の構想
- 第11回 社会科教育課程編成の方法4—学習指導案に具現化される授業諸要因
- 第12回 模擬授業1
- 第13回 模擬授業2
- 第14回 模擬授業3
- 第15回 まとめ

<後期15回分>

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等、

シラバスを事前に読んでおくこと。）

- 第2回 高校教育課程の意義の概説
- 第3回 公民科教育課程の意義1—中学校社会科及び高等学校公民科・地理歴史科との関係
- 第4回 公民科教育課程の意義2—学習指導要領の記述から読み取る公民科の理論的枠組み
- 第5回 公民科教育課程の意義3—公民科教育の理論と公民科諸科目学習指導との関係
- 第6回 高校教育課程編成の方法の概観
- 第7回 公民科教育課程編成の方法1—公民科教育課程の意義を反映した教育計画の立案
- 第8回 公民科教育課程編成の方法2—生徒及び地域・学校の実態を反映した公民科教育課程編成の方法
- 第9回 公民科教育課程編成の方法3—教材の選択及び学習活動の構想
- 第10回 公民科教育課程編成の方法4—学習指導要領のレベルと授業計画・授業実践のレベル
- 第11回 模擬授業1 現代社会の目標及び内容構成の具現化
- 第12回 模擬授業2 政治経済の目標及び内容構成の具現化
- 第13回 模擬授業3 倫理の目標及び内容構成の具現化
- 第14回 教育評価の類型と方法
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況、授業内小レポートの内容、及びレポート試験の内容を総合的に評価します。（前期・後期共レポート試験があります）

- (1) 授業の中で小レポートを3回作成し、提出する。(40%)
- (2) 期末試験を実施する。(60%)

【参考文献】

講義内においてその都度紹介します。必要最低限の文献についてはコピーを配布いたしますが、欠席者への再配布はいたしません。

※テキストは指定しませんが、下記図書は必須です。

- 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
- 『中学校学習指導要領解説 社会編』
- 『高等学校学習指導要領解説 公民編』

科 目 名			
社会科・公民科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	大 野 順 子

【講義概要・学習目標】

現在、子どもたちのなかでは社会と関わる力が弱体化し、社会問題への関心が希薄化している状況にあるといわれている。そうしたなか、子どもたちの社会参加や社会認識を高め、社会問題に対する関心を促す教育課程として、社会科・公民科教育が位置づけられている。ここでは、その社会科教育、及び、公民科教育設立の歴史的経緯をふりかえり、その意義と特徴、重要性を正しく理解しながら、社会科・公民科のカリキュラムの立案と授業実践が行え、正しい教育評価ができる資質と能力を身につけた教師の育成を目指す。

また、学習指導要領の改訂をむかえ、今日社会科・公民科教育にもとめられるカリキュラム内容についても検証していく。

【講義計画】

本講義では、社会科・公民科教育がもつそれぞれの教育課程における意義と特徴を理解するため、関連文献、テキスト、リサーチペーパーなどを読み、その理論的枠組みやカリキュラム構造について明らかにする。また、授業実践能力を身につけ、授業に対する分析・評価能力を育成するために、授業計画（カリキュラム）の作成や模擬授業を積極的に実施する。また、補足的に、社会科・公民科教育に関わる諸政策や提言等、最新の教育情報を取り入れながら、教育全体を見据えた社会科・公民科教育のあり方についても明らかにしていく。

年間計画：

講義は通年であるが、前期は主として中学校社会科、後期は高等学校公民科に重点を置いた授業構成となっている。全体的な構成は下記の通りとするが、状況により若干順番、内容を変更する場合がある。

<前期15回分>

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中学校教育課程の意義について
- 第3回 社会科教育課程の意義1－日本社会科の設立理念とその変遷
- 第4回 社会科教育課程の意義2－学習指導要領等の記述から読み取る社会科の理論的枠組み
- 第5回 社会科教育課程の意義3－社会科諸理論を反映した社会科授業の構想
- 第6回 社会科教育課程の意義4－社会認識教育としての社会科のあり方
- 第7回 中学校教育課程編成の方法について
- 第8回 社会科教育課程編成の方法1－社会科教育課程の意義を活かした社会科教育カリキュラム（具体的には、学習指導案の作成と授業技術【板書の仕方、机間巡視、発問の仕方等】）
- 第9回 社会科教育課程編成の方法2－地域社会を活用した社会科教育の実践
- 第10回 社会科教育課程編成の方法3－社会科における教材の選択及び学習活動の構想
- 第11回 社会科教育課程編成の方法4－海外事例との比較研究
- 第12回 模擬授業1
- 第13回 模擬授業2
- 第14回 模擬授業3
- 第15回 まとめ

<後期15回分>

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 高等学校教育課程の意義について
- 第3回 公民科教育課程の意義1－高校公民科：その設立過程と地理歴史科との関係
- 第4回 公民科教育課程の意義2－学習指導要領等の記述から読み取る公民科の理論的枠組み
- 第5回 公民科教育課程の意義3－公民科教育に求められる主要なパースペクティブ
- 第6回 公民科教育課程の意義4－公民的資質・市民的資質の育成

第7回 高等学校教育課程編成の方法について

- 第8回 公民科教育課程編成の方法1－公民科教育課程の意義を反映したカリキュラムの立案（具体的には、学習指導案の作成と授業技術【板書の仕方、机間巡視、発問の仕方等】）
- 第9回 公民科教育課程編成の方法2－地域社会を活用した公民科教育の実践
- 第10回 公民科教育課程編成の方法3－公民科における教材の選択及び学習活動の構想
- 第11回 公民科教育課程編成の方法4－海外事例との比較研究
- 第12回 模擬授業1
- 第13回 模擬授業2
- 第14回 模擬授業3
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況（重視）、レポート・課題の提出（期日厳守）、授業への参加・貢献度、期末試験等により総合的に評価する。

【教科書】

『学習指導要領（中学校編、高等学校編）』

テキストは特に指定しませんが、上記図書は授業理解を深めるためにも各自準備すること。

『中学校学習指導要領解説 社会編』

テキストは特に指定しませんが、上記図書は授業理解を深めるためにも各自準備すること。

『高等学校学習指導要領解説 公民編』

テキストは特に指定しませんが、上記図書は授業理解を深めるためにも各自準備すること。

【参考文献】

その都度指示します。

科 目 名			
社会科・地歴科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	山 崎 充 彦

【講義概要・学習目標】

地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。知識の詰め込みに終始すると捉えられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、各自に模擬授業を行ってもらおう。

もっぱら教員免許取得希望者を対象とし、「模擬授業を中心とした演習形式」とするので、教職希望しない者にとっては、苦痛を感じてであろう。その点、留意の上、登録履修されたい。

なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいと思うが、地理分野に関心を持つ者の登録履修も歓迎する。

【講義計画】

開講当初は、担当者が指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、授業への積極的参加を要求される。

1. 各自がそれぞれ学習指導案を作成する。
2. その指導案に基づき、原則として、毎回一人に模擬授業を行ってもらおう。
3. その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および授業資料（教科書その他のコピーなど）を配布する。
4. 模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。
＝指導案の問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。
＝一回の模擬授業担当予定者が司会役を務める。
5. 当日の出席者は、その模擬授業についてのレポートを当日ないし、翌週に提出する。

模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも知れないので、その点を留意されたい。

なお、模擬授業を担当するには、かなりの程度の事前準備が必要であることを認識してもらいたい。

例年、教科書だけを棒読みしてお終いとするような模擬授業や、担当者の質問に十分に回答できないような不勉強な者もいるが、そのような準備不足が著しい模擬授業担当者に対しては、かなり「強い言葉」を以て、批評・批判するので、履修登録に当たってはその点を覚悟しておかれたい。

【成績評価の方法】

模擬授業の担当は、単位認定のための絶対的前提条件である。

学習指導案の作成、模擬授業の内容、討論への参加、レポートの提出、出席回数、これらにより総合的に評価する。定期試験は行わない。

模擬授業の担当予定日に正当な理由無く欠席した者は、その時点で「不可」とする。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、実教出版

科 目 名			
社会科・地歴科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

①教育課程の意義と編成方法：生きる力を育てる学力を如何に達成するのか。そのために教育課程を如何に編成するのか。その基礎基本を修得する。

②中学社会科と高校地理歴史科の教育法：これらの教科教育の計画、内容と方法に関する基礎基本を修得する。

中学校「社会科」・高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法および、教科の特色をふまえた指導法について講義するとともに、実際に学生が授業指導案を作成し、それにもとづいて模擬授業を実践する。また、それらを参観した学生全員で討論を行う。

【講義計画】

- 第1回 生きる力と新学力観
- 第2回 教育課程の意義と編成方法
- 第3回 学校における教科教育
- 第4回 社会科の目標
- 第5回 社会科の目標における公民的資質とは何か
- 第6回 社会科地理的分野のカリキュラム構成と内容（1）
- 第7回 社会科地理的分野のカリキュラム構成と内容（2）
- 第8回 社会科歴史的分野のカリキュラム構成と内容（1）
- 第9回 社会科歴史的分野のカリキュラム構成と内容（2）
- 第10回 社会科公民的分野のカリキュラム構成と内容（1）
- 第11回 社会科公民的分野のカリキュラム構成と内容（2）
- 第12回 地理歴史科の目標
- 第13回 高校地理のカリキュラム構成と内容（1）
- 第14回 高校地理のカリキュラム構成と内容（2）
- 第15回 高校日本史のカリキュラム構成と内容（1）
- 第16回 高校日本史のカリキュラム構成と内容（2）
- 第17回 高校世界史のカリキュラム構成と内容（1）
- 第18回 高校世界史のカリキュラム構成と内容（2）
- 第19回 授業の構成（1）
- 第20回 授業の構成（2）
- 第21回 授業指導方法（1）
- 第22回 授業指導方法（2）
- 第23回 授業指導案の作成（1）
- 第24回 授業指導案の作成（2）
- 第25回 模擬授業の実践と講評反省会（1）
- 第26回 模擬授業の実践と講評反省会（2）
- 第27回 成績評価の方法
- 第28回 社会科・地理歴史科と人権学習
- 第29回 生涯学習社会と社会科・地理歴史科教育の課題
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

指定した書式にもとづく「授業指導案」を作成し、期日までにレポートして提出すること。またこの提出した指導案をもとに履修者全員が授業時間中に模擬授業を行うこと。これらの平常点をもって、成績を評価し、単位認定の条件とする。

【教科書】

文部省 中学校学習指導要領解説 社会編 大阪書籍
文部科学省 高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 実教出版

【参考文献】

井原政純『社会科・地歴科・公民科基礎論』多賀出版
永井滋郎・平田嘉三『社会科需要用語300の基礎知識』明治図書

さ
行

科 目 名			
社会学科基礎演習 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	岩 田 考
02	春学期		巖 圭 介
03	春学期		上 田 修
04	春学期		上 田 修
05	春学期		過 放 男
06	春学期		北 川 紀
07	春学期		北 川 紀
08	春学期		木 下 栄
09	春学期		清 水 由
10	春学期		清 水 由
11	春学期		鈴 木 富
12	春学期		鈴 木 富
13	春学期		竹 内 真
14	春学期		竹 内 真
15	春学期	竹 中 英	
16	春学期	松 永 俊	

【講義概要・学習目標】

この科目は、これから社会学科で学んでいこうとする一回生のために開かれる、少人数クラスのゼミナールです。
 大学で「学ぶこと」は、高校までの「勉強」とは違います。一言で言えば、大学では、主体的、能動的に学ぶ必要が格段に強化されます。そこでこの演習では、皆さんが社会学科で学んでいくにあたって身につけてほしいさまざまな力を豊かにするために、“見る・読む・聞く・考える・書く・話す”の基礎的トレーニングを意識的におこないます。

<学習目標>

1. <テーマの発見>：社会的現実に関心を持ち、現実の中に問題を発見する力をつけよう。
2. <情報収集>：必要な情報を探し収集する方法を学ぼう。単行本、雑誌、新聞などの活字メディアだけでなく、映像・音声メディア、さらには現場、現地における参与観察、インタビューやインターネットなど使って、効率よく情報を探索し、入手する方法を学ぼう。
3. <情報解読>：収集された多種多様な情報を解読しよう。本、新聞・雑誌、映像・音声メディアなどから収集した情報の正確な見方、読み方、聞き方を中心に観察の仕方、体験の反省の仕方について学ぼう。
4. <現実の再構成>：解読された情報を使って、社会がどのような諸要素や諸次元から成り立っているか、論理的に考え、再構成してみよう。さまざまなテーマに関するレジュメやレポートを書き、添削指導をうけることによって、現実を再構成する力をつけよう。
5. <コミュニケーション力の展開>：作成したレジュメやレポートをもとに、プレゼンテーションの仕方を学び、口頭報告や討論をつうじてアイデアをさらに豊かにするコミュニケーション力を高めよう。

*全回出席を原則とする

【講義計画】

- 第1回 演習の概略説明と自己紹介
- 第2回 社会的現実に関心をもとう
- 第3回 社会的現実からテーマを発見しよう
- 第3回 情報収集について学ぼう
- 第4回 図書館の上手な使い方を知ろう
- 第5回 情報を解読してみよう①
- 第6回 情報を解読してみよう②
- 第7回 情報を解読してみよう③
- 第8回 レジュメ（要約）とはどういうものか
- 第9回 レジュメ（要約）を書いてみよう
- 第10回 みんなの前で発表してみよう
- 第11回 報告を聞いて討論してみよう
- 第12回 レポートの書き方について
- 第13回 レポートを作成してみよう
- 第14回 まとめ

* 授業項目の回数を調整したり、順序を入れ替えたりする場合

があります。

【成績評価の方法】

出席点（30%）、授業における活動状況（20%）、レジュメなどの提出物（20%）、レポート（30%）

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	捧 堅 二

【講義概要・学習目標】

政治社会学を中心に、社会学のいくつかのテーマと現代社会の諸問題について勉強する。
有名なドイツの社会学者ウェーバーの理論についても触れる。
できるだけ映像を利用したい。

この授業は勉強だけが目的であり、別に親睦をはかるとかいったことはしないのでご注意ください。まじめな学生のまじめな受講を期待したい。

【講義計画】

職業政治家（「職業としての政治」、共同体（ゲマインシャフト）、伝統的支配、近代化、カリスマ、宗教・世俗化・宗教の復興、イエス・キリスト、天皇制、「国語」、日本政治の特質、アメリカの政治と社会など。

【成績評価の方法】

各自の選択で、2つのやり方のうちどちらかひとつを選んでもらいます。

- (1) A4・1枚の短い読書報告のレポートを前期2回、後期2回程度提出。

もしくは(2)筆記試験1回（秋学期末）とレポート1回。

以上に加えて、出席と熱心さをプラス・マイナスに大幅に考慮して総合的に評価をします。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

この授業は、「文献演習」なので、毎回のように多くの参考文献を紹介します。小説から古典までいろいろです。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	清 水 夏 樹

【講義概要・学習目標】

近年、TVアニメや映画などジャパニーズ・クールと称されるように、このジャンルの作品群が国際的に高評価を得ている。それらを潜在的な文化資源とみ、知的財産権の対象とする動きも出ている。このようにSub、すなわち“下位の文化”の一言で片づけられない側面をふまえて、以下各自関心項目を設定してもらう（例＝現代音楽、オカルト、宗教ブーム、漫画・アニメドラマ、メディア文化等）。

－6,70年代以降の各年限サイクルに照し、若年世代の心理の反映や流行への反応度を照射する手がかりとして、現代社会の動態と諸相をよみとくコードを各自なりにたぐり寄せてほしい。

【講義計画】

前期

大衆から分衆社会へ 青年世代の今昔と「聖」「俗」「遊」価値フレーム 高度情報化ともの・言葉・メッセージ。

後期

高度消費社会と記号論 バーチャルイメージとゲーム感覚、同じくインターネット空間、Self reference

【成績評価の方法】

最終的には年度末提出のレポートで評価・判定する。ほか通年の出席状態、その都度こちらが課す読書、文献の解説、簡易レポート、討議に際しての発言内容等を加味し判断材料とする。

【教科書】

未定

【参考文献】

講義中に随時紹介する。

さ
行

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	島 中 宗 一

【講義概要・学習目標】

文献演習は、文献の読解力、研究上のアイデアやヒント、社会的想像力などを獲得することがその目標である。

富裕化社会における複数の命題群のなかで、「富裕化が関係性や繋がりを喪失させるように機能している」側面について、関連する文献を読むことによって、この命題に関する考察を深める。

【講義計画】

テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。

【成績評価の方法】

レポート

【教科書】

柳田邦男 壊れる日本人：ケータイ・ネット依存症への告別 新潮文庫
前期
荒井千暁 職場はなぜ壊れるのか ちくま新書
後期

【参考文献】

島中宗一『家族支援論』世界思想社
島中宗一『情緒的自立の社会学』世界思想社

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	山 内 乾 史

【講義概要・学習目標】

この文献演習では、社会における教育の役割、学校の役割を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会学的なものの見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。これらも、かなり視聴して頂くことになります。

特に今年度は昨年度に引き続き社会の階層化と教育、フリーターとワーキング・プア問題の二つを中心に文献を講読します。

【講義計画】

授業で中心的に読むことを考えている文献は、以下の四つです。

前期
朝日新聞ロスジェネ取材班『ロスジェネレーションの逆襲』（朝日新書、2007年）、
小島貴子『働く意味』（幻冬舎新書、2007年）

後期

荒井千暁『勝手に絶望する若者たち』（幻冬舎新書、2007年）
須田慎一郎『下流喰い』（ちくま新書、2006年）

【成績評価の方法】

発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。

【教科書】

上記文献を用います。ただし、文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。

【参考文献】

多数ありますので、授業中に指示します。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	渡 部 美穂子

【講義概要・学習目標】

就職商法といって、求人をかたって人を集め、実際は商品売るのが目的の悪質商法がある。こういう手合いにだまされる人が案外多いが、それはどうしてだろうか。他にもいろんな悪質商法がある。自己開発セミナーと称して、「あなたの生き方を問い直しませんか」と悩みをもった人を誘う疑似宗教のたぐいもそうだ。そこには、いわゆる社会的影響という社会心理学上の諸問題が豊富に含まれている。

この演習ではテキストの講読をつうじて、上に述べたような、私たちが知らない間に影響を受けるメカニズムに関する理論の理解を学ぶことを目的とする

【講義計画】

教科書の章にしたがって、各自が分担の章の概要について、また、授業中に指示した重要関連文献について、レジュメを作成して発表する。章立ては以下のとおりである。

1. 影響力の武器 2. 返報性 3. コミットメントと一貫性
4. 社会的証明 5. 好意 6. 権威 7. 希少性
8. 手っとり早い影響力

【成績評価の方法】

発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。

【教科書】

R. B. チャルディーニ（社会行動研究会訳）『影響力の武器 ——なぜ、人は動かされるのか』誠信書房

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	大 野 順 子

【講義概要・学習目標】

人口移動のグローバル化に伴い、現在、日本社会もアメリカやイギリス、カナダやオーストラリア等と同様に、多文化・多民族国家として発展し続けている。こうした社会状況の変化は私たちの生活にどのような影響を与えているのか。また、社会的マイノリティとされる在任外国人は社会の中でどのような状況に置かれているのか。特に、教育分野に焦点を当てながら、多文化共生のあり方について探る。

【講義計画】

多文化共生、多文化教育等に関する文献を、担当者（毎回1～数名担当）がその内容を要約・発表し、残りの時間を利用して受講生全員で文献内容に関連した課題・テーマについてディスカッションを行うことを毎時間の基本スタイルとします。

扱う文献はその都度指示します。

※第一回目の授業時に文献リストを配布するので必ず出席すること（その後の配布はしません）。

その他としては講義の進捗状況により学校へのフィールドワークや参加型ワークショップなどの活動も積極的に取り入れ、理論と実践の面から多文化共生社会のあり方について考えていきます。

【成績評価の方法】

1. 出席（コメントカードへの記入）
2. 授業への貢献度
（プレゼンテーション、ディスカッションへの参加）
3. 課題・レポートの提出（締切厳守）
4. 試験（予定）

以上により、総合的に評価します。

【教科書】

ジェームス・A・バンクス『多文化教育—新しい時代の学校づくり』サイマル出版会

テキストは購入する必要はありません。こちらで準備します。

ジェームス・A・バンクス『民主主義と多文化教育』明石書店

テキストは購入する必要はありません。こちらで準備します。

Banks, James A. Diversity And Citizenship Education -Global Perspectives Jossey-Bass

テキストは購入する必要はありません。こちらで準備します。

【参考文献】

その都度指示します。

科 目 名			
社会言語学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	橋 内 武

【講義概要・学習目標】

言語と社会の関係を明らかにしようとする学問分野が社会言語学である。その場合、社会を手がかりにして、言語を研究するアプローチと言語を手がかりにして社会を研究するアプローチがある。社会にも、国家や民族のような大きな社会と会話をする友人同士や家族のような小さな社会があり、マクロ社会言語学とミクロ社会言語学が存在する。本講では、その両者に目を配りながら、社会言語学の基本的事項をおさえることを主な学習目標とする。二次的には、応用社会言語学にも触れることで、社会的にも有用な学問であることを証明したい。

【講義計画】

- 第1回 インTRODクシヨン（講義計画・教科書・評価法等）
- 第2回 社会言語学とは何かーさまざまな社会言語学
- 第3回 談話分析ー談話とは何か
- 第4回 ことばの構造と機能
- 第5回 テキストとコンテクスト
- 第6回 談話とコミュニケーション
- 第7回 発話行為論と語用論
- 第8回 ポライトネスと敬語
- 第9回 コミュニケーションの民族誌
- 第10回 会話分析ー電話のやりとり
- 第11回 非言語コミュニケーションー目は口ほどにものを言い
- 第12回 アコモデーション理論ー言語社会心理学
- 第13回 相互行為の社会言語学
- 第14回 批判的談話分析ー言語と権力
- 第15回 言語の変種ー社会方言とレジスター
- 第16回 言語のゆれと言語変化ー新方言
- 第17回 言語とジェンダーーフェミニズムと言語変革
- 第18回 言語と民族ー少数民族言語の維持・交替・消滅
- 第19回 言語と国家ー国語と公用語・言語問題と言語計画
- 第20回 言語とアイデンティティー国民・民族・地域住民
- 第21回 言語接触ー外来語とバイリンガリズム
- 第22回 言語接触ーピジン・クレオール
- 第23回 言語監査ー外国人住民への言語サービス
- 第24回 外国語教育への応用ー言語教育政策
- 第25回 外国語教育への応用ーコミュニケーション・アプローチ
- 第26回 外国語教育への応用ーバイリンガル教育
- 第27回 社会言語学の歴史と未来展望
- 第28回 まとめと補遺

【成績評価の方法】

出席20%、レポート20%、期末試験60%である。
レポートの課題は、授業が始まってから教室で指示する。

【教科書】

飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子 新世代の言語学：社会・文化・人をつなぐもの くろしお出版
橋内 武 ディスコースー談話の織りなす世界 くろしお出版

【参考文献】

真田信治編、『社会言語学の展望』、くろしお出版。
真田信治他、『方言の機能』（シリーズ方言学4）、岩波書店
JACETバイリンガリズム研究会編、『日本のバイリンガル教育ー学校の事例から学ぶ』、三修社。
東照二著、『社会言語学入門』、研究社。
ロング、ダニエル編著、『応用社会言語学を学ぶ人のために』、世界思想社。
小池生夫編集主幹、『応用言語学事典』、研究社。
ジョンソン、K.、『外国語教育学大辞典』、大修館書店。
中島平三編、『言語の事典』、朝倉書店。
雑誌『言語』、『日本語学』、『ことばと社会』

科 目 名			
社会思想史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	梅 田 百合香

【講義概要・学習目標】

本講義は、近代から現代にいたるまでの西洋の社会思想史の流れを、「自由、政治と宗教、社会契約論」および「資本主義、社会主義、近代の超克」という二つの大きなテーマから分析を行う。その際、各思想家の議論の特徴および思想家間の批判と継承の相互連関について、当時の政治・経済・社会状況および国際関係をおさえながら考察する。こうした分析を通じて、現代が近代から受けとった問題を明らかにし、克服・解決の糸口を探求することにした。社会思想の歴史的理解を通して、現代社会と現代世界を批判的に認識する視点と問題を克服するための独創的な構想力を養うことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 講義ガイダンス
- 第2回 社会契約論：ホッブズ（1）
- 第3回 社会契約論：ホッブズ（2）
- 第4回 社会契約論：ホッブズ（3）
- 第5回 社会契約論：ホッブズ（4）
- 第6回 社会契約論：ロック（1）
- 第7回 社会契約論：ロック（2）
- 第8回 社会契約論：ロック（3）
- 第9回 社会契約論：ロック（4）
- 第10回 社会契約論：ルソー（1）
- 第11回 社会契約論：ルソー（2）
- 第12回 社会契約論：ルソー（3）
- 第13回 社会契約論：ルソー（4）
- 第14回 古典派経済学の形成：スミス（1）
- 第15回 古典派経済学の形成：スミス（2）
- 第16回 古典派経済学の形成：スミス（3）
- 第17回 古典派経済学の形成：スミス（4）
- 第18回 社会主義：マルクス（1）
- 第19回 社会主義：マルクス（2）
- 第20回 社会主義：マルクス（3）
- 第21回 社会主義：マルクス（4）
- 第22回 全体主義の衝撃：L・シュトラウス（1）
- 第23回 全体主義の衝撃：L・シュトラウス（2）
- 第24回 全体主義の衝撃：L・シュトラウス（3）
- 第25回 近代の超克：アレント（1）
- 第26回 近代の超克：アレント（2）
- 第27回 近代の超克：アレント（3）
- 第28回 近代の超克：アレント（4）
- 第29回 期末試験

【成績評価の方法】

成績評価基準は期末試験を70%、平常点を30%とする。毎回講義の最後に感想文の提出を求め、平常点として加点するとともに、学期末に論述形式の試験を行い、総合して成績を評価する。

【教科書】

特定の教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

科 目 名			
社会心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	岩 田 考

【講義概要・学習目標】

社会心理学は、人間の行動を、社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てる心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。

本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の基礎的な概念や理論を身につけてもらうことが目標です。

「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合もありますが、社会学的研究への寄与を常に念頭においていたものです。社会心理学を学ぶことによって、心理学と社会学の差違と共通性を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。「純粋」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。

【講義計画】

より詳細な内容については初回に説明します。

1. 講義の概要
2. 社会心理学とは (1)
3. 社会心理学とは (2)
4. 対人関係 (1)
5. 対人関係 (2)
6. 対人関係 (3)
7. 対人関係 (4)
8. 自己と社会化 (1)
9. 自己と社会化 (2)
10. 自己と社会化 (3)
11. 自己と社会化 (4)
12. 集団と組織 (1)
13. 集団と組織 (2)
14. 集団と組織 (3)
15. 集団と組織 (4)
16. 流行と集合行動 (1)
17. 流行と集合行動 (2)
18. 流行と集合行動 (3)
19. マス・コミュニケーション (1)
20. マス・コミュニケーション (2)
21. マス・コミュニケーション (3)
22. 情報化 (1)
23. 情報化 (2)
24. 情報化 (3)
25. 心理学化・心理主義化 (1)
26. 心理学化・心理主義化 (2)
27. 心理学化・心理主義化 (3)
28. まとめ

【成績評価の方法】

基本的には学期末試験 (100%) で評価しますが、任意で提出してもらうレポート等も加味します。

【教科書】

必要な資料は各講義で配付する予定ですが、初回講義時に教科書を指定する可能性があります。

【参考文献】

- 安藤清志ほか著 1995『現代心理学入門4 社会心理学』岩波書店
池田知子・遠藤由美 1998『グラフィック 社会心理学』サイエンス社
岩田考ほか編 2006『若者たちのコミュニケーション・サバイバルー親密さのゆくえ』恒星社厚生閣
末永俊郎・安藤清志編 1998『現代社会心理学』東京大学出版会
※その他、講義中に適宜紹介します。

科 目 名			
社会政策総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 西 祥 恵

【講義概要・学習目標】

将来的にどんな道を歩むのかということを現時点で決めるのは誰にとっても難しい。とはいえ、人生における重大な局面で、自らの歩む道を主体的に選択するためには、社会における諸制度がどのようになっているのかという点を最低限理解しておかなければならないだろう。こうした制度には、労働条件や労働市場に関する制度、収入が途絶えた際に重要な役割を果たす年金制度、病気やけがをした際に活用する医療制度、日本社会におけるセイフティ・ネットと位置づけられている生活保護制度などが含まれている。本講義の目的は、これら諸制度に関する基本的な事項についてしっかりと学ぶことである。

【講義計画】

1. ガイダンス 社会政策研究の系譜
2. 労働基準 (1) 労働基準の出発点と現状
3. 労働基準 (2) 労働基準の現状と課題
4. 労働市場 (1) 労働市場政策の成立と展開
5. 労働市場 (2) 消極的労働市場政策から積極的労働市場政策への転換
6. 労働市場 (3) 非正規労働の拡大と今後の課題
7. 企業社会 (1) 企業社会と日本的経営
8. 企業社会 (2) 法人企業—会社法モデルと共同体モデル—
9. 企業社会 (3) 企業社会のゆくえ
10. 年金 (1) 年金制度とその財政方式
11. 年金 (2) 八五年改革の位相
12. 年金 (3) 八九年改革と九四年改革
13. 年金 (4) 近年の動向と課題
14. 医療 (1) 医療制度と診療報酬支払方式
15. 医療 (2) 健康保険制度と国民健康保険制度の成立と展開
16. 医療 (3) 高齢社会と医療保障制度改革
17. 公的扶助 (1) 生活保護制度の成立と展開
18. 公的扶助 (2) 不定住者と外国人
19. 公的扶助 (3) 「適正化」問題と扶養
20. 公的扶助 (4) 貧困線と基本的ニーズ
21. 家族的責任 (1) 家族的責任とアンパイド・ワーク
22. 家族的責任 (2) 性別雇用管理と家族単位の社会保障制度
23. 家族的責任 (3) 二重負担とジェンダー分業
24. 家族的責任 (4) 家族を支える政策

【成績評価の方法】

試験、講義内での取り組み、出席状況および出席態度などにて評価する。

【教科書】

玉井金五・大森真紀編著『三訂 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社

【参考文献】

講義中に指示することがある。

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	岩 田 考

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 7 測定と分析の基礎③記述と説明
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

基本的には、出席状況（15%）、提出物（15%）、学期末試験（70%）で評価します。ただし、共同作業への取り組みやレポート（任意）の評価も加味します。

【教科書】

大谷信介ほか著 社会調査へのアプローチ—論理と方法 [第2版] ミネルヴァ書房

【参考文献】

ハンス・ザイゼン 2005『数字で語る』新曜社
 谷岡一郎 2000『「社会調査」のウソ』文春新書
 森岡清志編著 1998『ガイドブック社会調査』日本評論社
 佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社
 ※その他、講義中に適宜紹介します。

【備考】

<02～07生>のみ対象

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聴き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

【備考】

<02～07生>のみ対象

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 7 測定と分析の基礎③記述と説明
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については初回の授業で説明する。

【教科書】

大谷・木下・後藤・小松・永野『社会調査へのアプローチ 論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房

【参考文献】

谷岡一郎『「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書
赤川学『子どもが減って何が悪い！』ちくま新書

【備考】

<02～07生>のみ対象

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期	2単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例にもとづきながら、その基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較をとおして社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へとむかう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②記述と説明
- 7 測定と分析の基礎③仮説の構成
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査報告書の書き方

（注）以上の内容を全14回の授業に割り当てる。

【成績評価の方法】

毎回の課題の達成状況（小テスト・小レポートなど、60%）、期末試験（40%）。

やむをえない理由で遅刻・欠席した場合は、証明書または報告書を提出すれば、その具体的な内容と緊急性の度合いに応じて考慮する。ただし考慮の対象は、遅刻・欠席を合わせて、全授業回数 $\frac{3}{10}$ を超えない範囲＝4回までとする。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- [1] 森岡清志編『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社、2007年。
- [2] 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書、2007年。
- [3] 佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、2006年。
- [4] 宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書、2004年。

【備考】

<02～07生>のみ対象

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聴き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	秋学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聴き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	秋学期	2単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例にもとづきながら、その基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較をとおして社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へとむかう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②記述と説明
- 7 測定と分析の基礎③仮説の構成
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査報告書の書き方

（注）以上の内容を全14回の授業に割り当てる。

【成績評価の方法】

毎回の課題の達成状況（小テスト・小レポートなど、60%）、期末試験（40%）。

やむをえない理由で遅刻・欠席した場合は、証明書または報告書を提出すれば、その具体的な内容と緊急性の度合いに応じて考慮する。ただし考慮の対象は、遅刻・欠席を合わせて、全授業回数の3分の1を超えない範囲＝4回までとする。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- [1] 森岡清志編『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社、2007年。
- [2] 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書、2007年。
- [3] 佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、2006年。
- [4] 宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書、2004年。

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	秋学期	2単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例にもとづきながら、その基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較をとおして社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へとむかう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②記述と説明
- 7 測定と分析の基礎③仮説の構成
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査報告書の書き方

（注）以上の内容を全14回の授業に割り当てる。

【成績評価の方法】

毎回の課題の達成状況（小テスト・小レポートなど、60%）、期末試験（40%）。

やむをえない理由で遅刻・欠席した場合は、証明書または報告書を提出すれば、その具体的な内容と緊急性の度合いに応じて考慮する。ただし考慮の対象は、遅刻・欠席を合わせて、全授業回数の3分の1を超えない範囲＝4回までとする。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- [1] 森岡清志編『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社、2007年。
- [2] 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書、2007年。
- [3] 佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、2006年。
- [4] 宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書、2004年。

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ（第2版）』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 1 社会調査の企画・設計
- 2 社会調査の実施方法
- 3 問題意識の絞り込み
- 4 仮説の検討
- 5 質問文の作成
- 6 調査票の完成
- 7 サンプリングの方法
- 8 調査の実施手順
- 9 調査票の配布と回収
- 10 調査データの整理
- 11 データ集計の基礎
- 12 統計的検定と仮説の検証
- 13 分析結果の発表
- 14 発表へのコメント
- 15 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容および筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については最初の授業で説明する。

【教科書】

大谷・木下・後藤・小松・永野『社会調査へのアプローチ 論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	秋学期	2単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心にもとづいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 1 社会調査の企画・設計
- 2 社会調査の実施方法
- 3 問題意識の絞り込み
- 4 仮説の検討
- 5 質問文の作成
- 6 調査票の完成
- 7 サンプリングの方法
- 8 調査の実施手順
- 9 調査票の配布と回収
- 10 調査データの整理
- 11 データ集計の基礎
- 12 統計的検定と仮説の検証
- 13 分析結果の発表
- 14 発表へのコメント
- 15 調査報告書の書き方

(注) 以上の内容を、調査手法別に全14回の授業に割り当てる。

【成績評価の方法】

毎回の課題の達成状況（50%）と他者の発表へのコメント（30%）、期末レポート（2000字程度、20%）。

グループ作業を行なうので、遅刻・欠席は原則として認めない。やむをえない理由がある場合にかぎり、証明書または報告書を提出すれば、その具体的な内容と緊急性の度合いに応じて考慮する。ただし考慮の対象は、遅刻・欠席を合わせて全授業回数の3分の1を超えない範囲＝4回までとする。また授業に出られないときは、必ずグループのメンバーに連絡をし、行方不明にならないこと。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- [1] 森岡清志編『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社、2007年。
- [2] 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書、2007年。
- [3] 佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、2006年。
- [4] 宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書、2004年。

科 目 名			
社会調査実習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期集中	4単位	木 下 栄 二 大 瀧 友 織

【講義概要・学習目標】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、とくに統計解析の諸技法の習得を目指す。授業では、(1) 過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な技法について学ぶとともに、(2) 「社会科学のための統計パッケージ (SPSS)」を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析技法を使いこなせるようになることを目指す。また、秋学期の「社会調査実習II」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務づける。

【講義計画】

- 1 実習の計画（必要な場合は実習生のグループ分け）
- 2 先行研究の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 3 先行研究の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 4 先行研究（官庁統計）の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方（単純集計・度数分布）
- 5 先行研究（官庁統計）の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方（代表値・平均値・分散）
- 6 先行研究（官庁統計）の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方（クロス集計・比率の差）
- 7 先行研究（調査報告書）の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念（クラマー係数、ファイ係数）
- 8 先行研究（調査報告書）の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念（ピアソン係数、ケンダール係数）
- 9 先行研究（調査報告書）の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 10 先行研究（研究論文）の検討 ①統計データの社会学的分析法
- 11 先行研究（研究論文）の検討 ①多変量解析の基礎（重回帰分析）
- 12 先行研究（研究論文）の検討 ②多変量解析の基礎（因子分析、主成分分析）
- 13 先行研究（研究論文）の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ（重回帰、ロジット回帰）
- 14 先行研究（研究論文）の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ（数量化理論）
- 15 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 16 既存データの再集計 ②SPSSの基礎
- 17 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 18 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 19 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 20 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 21 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 22 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 23 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 24 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 25 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエラボレーション
- 26 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエラボレーション
- 27 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際（重回帰分析）
- 28 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際（因子分析、主成分分析）
- 29 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 30 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

授業への参加（毎回の出席は当然である。ただ居るだけでは出席とみなさない。主体的かつ積極的な参加を要求する）と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期末提出の調査計画書（4000字程度）によって評価する。

【教科書】

大谷・木下・後藤・小松・永野 社会調査へのアプローチ（第2版）ミネルバ書房
社会調査A、Bと共通

さ
行

科 目 名			
社会調査実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期集中	4単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

この科目は、「社会調査実習Ⅰ」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題として、社会調査に関する深い知識と技法の習得を目指す。調査の企画から報告書の作成にまで至る調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っただきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。なお、8000字以上の調査報告レポートが、単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の参加を期待する。

【講義計画】

少人数の演習形式によって、基本的には、つぎのような段階を踏んでいく。

- 1 問題意識と仮説の絞り込み
- 2 質問文・調査票の作成
- 3 調査票の配布と回収
- 4 データの整理・集計・分析
- 5 分析結果のプレゼンテーション
- 6 報告書の執筆・編集

【成績評価の方法】

授業への参加（毎回の出席は当然である。ただ居るだけでは出席とみなさない。主体的かつ積極的な参加を要求する）と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期末提出の調査計画書（4000字程度）によって評価する。

【教科書】

大谷・木下・後藤・小松・永野 社会調査へのアプローチ（第2版）ミネルバ書房
社会調査A、Bと共通

科 目 名			
社会調査実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	大 瀧 友 織

【講義概要・学習目標】

この科目は、「社会調査実習Ⅰ」の単位取得者を対象に開講されるものである。授業では、「実習Ⅰ」で提出された調査計画書にもとづき、実際に調査票を作成し、データを収集し、その分析結果を報告書にまとめる。調査は、1994年度より実施している「大学生の生活と意識に関する調査」を継続して実施する。

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。とくに「実習Ⅱ」では、8000字以上の調査報告レポートの提出が必須である。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

少人数の演習形式によって、基本的には（1）問題意識と仮説の絞り込み、（2）質問文・調査票の作成、（3）調査票の配布と回収、（4）データの整理・集計・分析、（5）分析結果のプレゼンテーション、（6）報告書の執筆という段階をおっていくことになる。「社会調査実習Ⅰ」との継続科目なので、各自の調査計画を出来る限り尊重するが、実査は参加学生全体でおこなう。そのため調査実施のためのチームワークも重要な評価ポイントとなる。

調査のテーマは、1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。具体的には、調査票を用い、主として大学生の「結婚観」や「家族観」「家族関係」等を計量的に分析する。調査対象者としては、本学学生が主となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の父兄なども対象に加えることも検討している。

【成績評価の方法】

毎回の出席、小レポートなど課題の提出、発表、調査報告レポート（8000字以上）によって評価する。レポート評価のポイントは、（1）問題の構成や仮説検証の手続きが妥当であること、（2）SPSSおよびエクセルを使いこなしていること、（3）分析結果の解釈が妥当であることなど、とする。また、実査は参加学生全員でおこなうので、チームワークも成績評価の重要な要素となる。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

森岡清志編『ガイドブック社会調査 第2版』（日本評論社）

科 目 名			
社会調査特講－質的調査法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

今年度の講義では、質的調査法の種類と実例、特に聞き取り調査の技法、参与観察法とドキュメント分析法を中心に、それぞれの技法の特徴や調査実施上の倫理など、基礎的知識について学ぶ。調査の企画、調査技法の選定と調査項目の設定、調査の実施、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノートの書き方、報告書の作成など調査方法について具体的に学ぶとともに体験実習を通して理解を深める。

この授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。なお授業では、受講生個人を単位に、あるいは小グループを編成して、調査の実施とそのデータ分析に取り込む方法をとる。したがって授業への出席のみならず、授業時間外にも調査作業や、グループの連携性・協調性が不可欠の必要条件である。

【講義計画】

1. 質的調査法に関する概説
2. 聞き取り調査とその特徴
3. 聞き取り調査の技法
4. 聞き取り調査のデータ分析
5. インタビュー法
6. ライフヒストリーの分析
7. フィールドワークの技法
8. 参与観察法とは
9. 参与観察法の進め方
10. 参与観察法のデータ収集と分析
11. さまざまなドキュメント分析
12. ドキュメント分析の調査企画
13. ドキュメント分析の技法
14. ドキュメント分析のデータ収集と分析
15. 事例研究

【成績評価の方法】

出席状況・授業時の態度及びレポートの結果を総合して評価する。詳細については最初の授業の際に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査特講－統計解析法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	大 瀧 友 織

【講義概要・学習目標】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピュータも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 1 基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
- 2 確率論基礎①（確率の発想と二項分布）
- 3 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理）
- 4 統計的推定とサンプリング理論
- 5 統計的検定の理論（比率の差の検定）
- 6 量的変数と質的変数（分析手法の概観）
- 7 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定）
- 8 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定）
- 9 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数）
- 10 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定）
- 11 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション）
- 12 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎）
- 13 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数）
- 14 量的変数と量的変数との関連③（第三変数の導入、偏相関係数）
- 15 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎）

【成績評価の方法】

学期末試験80%、小テスト10%、授業態度10%（授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

【教科書】

特に指定しないが、参考文献のうち2冊以上を読了しておくことが望ましい

【参考文献】

P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
 得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
 芝村良『R.A.フィッシャー統計理論』九州大学出版会
 原純輔・海野道郎『社会調査演習（第2版）』東京大学出版会
 ジョエル・ベスト（林訳）『統計はこうしてウソをつく だまされないための統計学入門』白揚社

科 目 名			
社会調査特講－統計解析法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピューターも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 1 基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
- 2 確率論基礎①（確率の発想と二項分布）
- 3 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理）
- 4 統計的推定とサンプリング理論
- 5 統計的検定の理論（比率の差の検定）
- 6 量的変数と質的変数（分析手法の概観）
- 7 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定）
- 8 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定）
- 9 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数）
- 10 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定）
- 11 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション）
- 12 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎）
- 13 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数）
- 14 量的変数と量的変数との関連③（第3変数の導入、偏相関係数）
- 15 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎）

【成績評価の方法】

学期末試験80%、小テスト10%、授業態度10%（授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

【教科書】

特に指定しないが、参考文献のうち2冊以上を読了しておくことが望ましい。

【参考文献】

P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
 得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
 芝村良『R.A.フィッシャー統計理論』九州大学出版会
 原純輔・海野道郎『社会調査演習（第2版）』東京大学出版会
 ジョエル・ベスト（林訳）『統計はこうしてウソをつく だまされないための統計学入門』白揚社

科 目 名			
社会病理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	島 中 宗 一

【講義概要・学習目標】

社会病理学を臨床社会学として展開する。臨床社会学は、社会病理学が固有に内在させてきた問題意識を、介入プロセスを視野に入れた社会学の行為として特化させた領域である。社会病理現象を臨床社会学的アプローチによって問題解決を志向する方法を学習する。

臨床社会学の特徴の第一は、介入プロセスの採用にある。第二は、生物学的・心理学的・社会的アプローチの相互作用である。第三は、マイクロ・メゾ・マクロ水準の相互作用である。第二と第三の相互作用のなかで、病理現象の全体像を析出し、問題解決のための見取り図を描き、実際の介入によって、問題を解決していく営為が、臨床社会学の方法である。本講義では、マイクロ・メゾ水準の社会病理現象を素材に取上げ、臨床社会学的アプローチの実際を学習する。

【講義計画】

1. 社会病理学への臨床社会学の貢献
2. 富裕化社会の社会病理現象
3. 臨床社会学の歴史
4. 臨床社会学の方法
5. 摂食障害
6. アルコール問題
7. 子ども虐待
8. 老人虐待
9. 犯罪
10. 臨床社会学とフィールド研
11. 専門性の問題
12. 隣接科学と臨床社会学

【成績評価の方法】

試験

【教科書】

島中宗一・清水新二・広瀬卓爾編 社会病理学講座第4巻 社会病理学と臨床社会学 学文社

【参考文献】

島中宗一『家族支援論』世界思想社
 島中宗一『情緒的自立の社会学』世界思想社

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	8単位	新 崎 国 広

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

演習科目であるので、出席日数（60％）と出席態度（40％）を重視する。規定出席日数に達しないものは不可。本講は、受講生と共に創っていきたいと考えている。主体的で積極的な参加を期待する。

【教科書】

『77のワークで学ぶ 対人援助ワークブック』 Heart実践研究会 久美出版
その他、適宜資料を印刷し配布する。

【参考文献】

『社会福祉施設ボランティアコーディネーションのめざすもの』 新崎国広編著 久美出版
『対人援助の本』 岡田誠編著 久美出版

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	8単位	大 垣 芳 美

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席と課題への取り組み態度を重視し、レポートを含めて総合的に評価する。

【教科書】

授業時にコピーを配布する。

【参考文献】

「対人援助ワークブック」対人援助実践研究会HEART編
「新社会福祉援助技術演習」社会福祉教育方法・教材開発研究会編 中央法規
「援助を深める事例研究の方法」岩間伸之著 ミネルヴァ書房
その他

【備考】

ビデオ利用の予定

さ
行

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	8単位	金 澤 ますみ

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への参加状況（出席率・とりくみの姿勢等）、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【教科書】

授業初回に指示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期集中	8単位	川 東 光 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくむ姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期集中	8単位	武 田 祐 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席状況および演習への参加態度（課題の趣旨を理解し、グループの場合では分担協力の上、積極的に取り組んでいるか）、レポート内容により評価する。

【参考文献】

諏訪茂樹「対人援助とコミュニケーション」中央法規 2001
社会福祉教育方法・教材開発委員会「新 社会福祉援助技術演習」2001 等

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	春学期集中	8単位	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【教科書】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①倉石哲也『ワークブック社会福祉援助技術演習③家族ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年。
- ②岩間伸之『ワークブック社会福祉援助技術演習④グループワーク』ミネルヴァ書房、2004年。
- ③筒井のり子『ワークブック社会福祉援助技術演習⑤コミュニティソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年。

【備考】

無断欠席・遅刻のないように。

さ
行

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	春学期集中	8単位	大 西 雅 裕

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席、レポート等による総合評価。
出席重視。

【教科書】

対人援助実践研究会HEART編 77のワークで学ぶ「対人援助ワークブック」久美出版

【参考文献】

山田容著ワークブック社会福祉援助技術演習① 対人援助の基礎
ミネルヴァ書房/
山辺朗子著ワークブック社会福祉援助技術演習② 個人とソーシャルワーク ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	春学期集中	8単位	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・取り組みの姿勢）、レポート等により、総合的に評価する。

【教科書】

授業中に提示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期集中	4単位	新 崎 国 広

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

演習科目であるので、出席日数（60％）と出席態度（40％）を重視する。規定出席日数に達しないものは不可。本講は、受講生と共に創っていきたいと考えている。主体的で積極的な参加を期待する。

【教科書】

『77のワークで学ぶ 対人援助ワークブック』 Heart実践研究会 久美出版

その他、適宜資料を印刷し配布する。

【参考文献】

『社会福祉施設ボランティアコーディネーションのめざすもの』 新崎国広編著 久美出版

『対人援助の本』岡田誠編著 久美出版

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	大 垣 芳 美

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席と課題への取り組み態度を重視し、レポートも含めて総合的に評価する。

【教科書】

授業時にコピーを配布する

【参考文献】

「対人援助ワークブック」対人援助実践研究会HEART編
「新社会福祉援助技術演習」社会福祉教育方法・教材開発研究会編 中央法規
「精神保健福祉援助演習」岩間文雄他共著 相川書房
その他

【備考】

ビデオ、カセットレコーダー利用の予定

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	金 澤 ますみ

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への参加状況、(出席率・とりくみの姿勢等)、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【教科書】

授業初回に指示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4単位	川 東 光 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席状況及び演習参加状況 レポート提出状況

【教科書】

指定なし

【参考文献】

- ・77のワークを学ぶ 対人援助ワークブック 久美書房
- ・社会福祉小六法 ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期集中	4単位	武 田 祐 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席状況および演習への参加態度（課題の趣旨を理解し、グループの場合では分担協力の上、積極的に取り組んでいるか）、レポート内容により評価する。

【参考文献】

- 対人援助実践研究会HEART「77のワークで学ぶ 対人援助ワークブック」久美株式会社 2003
 山田容「ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎」ミネルヴァ書房 2003 等

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	秋学期集中	4単位	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【教科書】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎』ミネルヴァ書房、2003年。
- ②対人援助実践研究会HEART『対人援助ワークブック』久美株式会社、2003年。

【備考】

無断欠席・遅刻のないように。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	秋学期集中	4単位	大 西 雅 裕

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席重視します。
出席とレポート等の総合評価

【教科書】

対人援助実践研究会HEART編 77のワークで学ぶ「対人援助ワークブック」久美出版

科 目 名			
社会福祉援助技術演習A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	秋学期集中	4単位	丸 山 裕 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

評価は総合的に行う予定だが、演習の性質上、出席と参加態度は特に重視する。

【教科書】

必要に応じて、プリント等資料を配布する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

【備考】

必要に応じてグループを編成する。グループでの学習や討議がスムーズに進むように各参加者が協力しあうこと。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	栄 川 セツコ
02	通期		井 山 太加子
03	通期		丸 山 裕 子
04	通期		福 田 公 教
05	通期		伊 藤 高 章
06	通期		石 田 易 司
07	通期		松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話
- 4 現場体験学習
- 5 見学実習
- 6 見学実習記録に基づくレポートの作成
- 7 全体総括

【成績評価の方法】

出席重視
レポートなどで総合的に評価

【教科書】

授業時、指定する

【参考文献】

随時、紹介する

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	川 井 太加子
02	通期		高 山 英 治
03	通期		森 田 靖 久
04	通期		塩 田 祥 輝
05	通期		荒 川 原 佳 和
06	通期		安 原 谷 弘
07	通期		長 谷 野 学
08	通期		

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	塩 田 祥 子
02	通期		藤 田 満 子
03	通期		安 原 佳 子
04	通期		福 田 公 教
05	通期		丸 山 裕 子
06	通期		佐 竹 紀 美 子
07	通期		松 端 克 文
08	通期		村 田 智 美
09	通期		幸 重 忠 孝

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術論Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	—	丸 山 裕 子

【講義概要・学習目標】

- この授業を2年間継続して履修し、以下の目標を達成する。
1. 基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。
 2. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の視点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。
 3. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
 4. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。
 5. 社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。
 6. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

【講義計画】

1. 社会福祉サービスと援助活動の関係
2. 福祉専門職と専門援助技術の関係
3. 専門援助技術の歴史的展開
4. 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則（人権尊重・権利擁護・自立支援等を含む）
 - 3) 社会福祉援助活動の展開過程
 - ①援助開始時の面接（インタビュー）と事前評価（アセスメント）
 - ②援助計画の作成
 - ③援助活動の実施
 - ④援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - ①契約・介入・課題の意義と方法
 - ②面接の意義と方法
 - ③記録の意義と方法
 - ④評価の意義と方法
 - ⑤専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義と方法
 - ⑥個別事象の継続的援助（ケースマネジメント）の意義と方法
5. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - ①個別援助技術（ケースワーク）
 - ②集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - ①地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技法
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - ニ 社会活動法
 - ②社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - ③社会福祉の運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）と社会福祉計画の技術
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
6. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
7. 専門援助技術と倫理
8. 専門援助技術の統合化とチームにおける対応
9. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【成績評価の方法】

評価は、客観テストや小レポートなどを含め総合的に行うが、出席と参加態度は重視する。主体的な取り組みの姿勢は、高く評価する。

【教科書】

基本的には、担当者が講義資料を作成する。
サブテキスト 伊藤淑子著『社会福祉援助技術とは何か』一橋出版

【参考文献】

そのつど紹介する。
 黒木保博他編著『福祉キーワードシリーズ ソーシャルワーク』
 中央法規
 太田義弘他編著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館 など

【備考】

ソーシャルワーク実践論の基盤となる科目である。予習・復習など必要な学習を行い、講義の内容を自らのものとして理解するようにこころがけること。

科 目 名

社会福祉援助技術論Ⅱ

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	8単位	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

- 1, 個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術について、最新の情報を入れながら具体的方法論を学ぶ。
- 2, 社会福祉調査法、社会福祉計画、社会福祉運営管理、社会活動法、ケアマネジメント、スーパービジョン等の技術論、方法論について詳しく学習し、実践に役立つ知識、技術を身につける。
- 3, 具体的事例を多くこなすことにより、実践感覚を身につける。

【講義計画】

- 1, 社会福祉援助技術の意義と機能
- 2, 社会福祉援助技術の実践領域と適応領域
- 3, 個別援助技術の展開過程
- 4, 集団援助技術の展開過程
- 5, 地域援助技術の援助原則と具体的展開
- 6, 社会福祉調査法の理論と技術
- 7, 社会福祉計画の理論と技術
- 8, 社会福祉の運営管理
- 9, 社会活動法の理論と技術
- 10, ケアマネジメントの目的と概念
- 11, ケアマネジメントの構成要素と過程
- 12, スーパービジョン
- 13, 効果測定と評価

【成績評価の方法】

出席数と毎回のレポート、学年末のまとめのレポート

【教科書】

石田易司 ラーニング パイ ドゥーイング エルピス社

【参考文献】

新しいグループワーク (YMCA出版、武田建・大利一雄)
 ベーシックグループワーク (晃洋書房 渡辺嘉久・杉本敏夫)
 初めて学ぶグループワーク (ミネルヴァ書房 野村武夫)
 ジェネラリスト・ソーシャルワーク (ミネルヴァ書房 山辺朗子・岩間伸之)

科 目 名			
社会福祉行財政論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	柴 田 幹 男

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉行財政の基本的な仕組み、歴史的変遷、今日的課題等についてその概要を理解する。
- 2 地方自治体における社会福祉行財政を、講師が体験した具体例を紹介しながら実態的な理解を深める。
- 3 社会福祉の主要な分野における諸制度の現状と課題について理解する。また、その持続可能性について考察する。

【講義計画】

1. 行財政制度の基礎的な仕組みを理解する
2. 行財政制度の現状と課題について考える
3. 地方分権改革について理解し・考察する。
4. 社会福祉行財政の現状・課題や今後の持続可能性について考える。
5. 介護保険制度の現状と課題を考察する。
6. 障害者自立支援制度の現状と課題を考察する。
7. 生活保護制度の現状と課題を考察する。
8. その他

【成績評価の方法】

出席と試験で総合的に評価する

【教科書】

プリントを配付する

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

科 目 名			
社会福祉計画論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	福 田 公 教

【講義概要・学習目標】

本稿では、日本における福祉計画の変遷と近年の動向および計画策定から評価までの一連の流れを概観する。

社会福祉の分野では、2000年の社会福祉法の成立により、法的にも本格的に「地域福祉の推進」が指向されることとなった。つまり、市町村が地域福祉計画、都道府県が地域福祉支援計画を策定することとなった。この状況をふまえて、本講では、地域福祉計画、地域福祉支援計画が生まれてくる社会的背景を明らかにするとともに、この計画の概要、策定方法、他計画との関係、評価、財政やローカル・ガバナンスとの関係を明らかにすることを目的としている。

社会福祉計画のうち地域福祉計画では、単なる資源の量的拡大だけを目的とするのではなく、その有効活用や地域における値とワークへの視点が必要となる。したがって、本講では、ソーシャルワーカーにとつての社会計画という観点からコミュニティワークの観点もふまえ分析・検討する。

【講義計画】

- 1 社会福祉の展開と社会福祉計画の概念
- 2 社会福祉計画の展開①（社会福祉計画の萌芽期）
- 3 社会福祉計画の展開②（社会福祉計画の移行期）
- 4 社会福祉計画の展開③（社会福祉計画の展開期）
- 5 社会福祉計画の展開④（社会福祉計画の確立期）
- 6 子ども家庭福祉分野における社会福祉計画（エンゼルプラン等）
- 7 高齢者福祉分野における社会福祉計画（ゴールドプラン等）
- 8 障害者福祉分野における社会福祉計画（障害者プラン等）
- 9 地域福祉計画以前の社会福祉計画の到達点と課題
- 10 社会福祉法の改正と地域福祉計画の登場
- 11 地域福祉計画の概要①（計画の理念）
- 12 地域福祉計画の概要②（計画の内容）
- 13 地域福祉計画の概要③（計画の策定）
- 14 地域福祉計画と関連計画
- 15 中間まとめ
- 16 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画
- 17 地域福祉計画の意義と課題
- 18 社会福祉計画の策定プロセス
- 19 ソーシャルワーカーと計画
- 20 住民参加の技法
- 21 社会福祉計画における評価
- 22 ガバナンス時代の社会福祉
- 23 地域福祉計画と社会福祉協議会
- 24 先進地域の福祉計画実践①
- 25 先進地域の福祉計画実践②
- 26 先進地域の福祉計画実践③
- 27 先進地域の福祉計画実践④
- 28 先進地域の福祉計画実践⑤
- 29 まとめ
- 30 試験

【成績評価の方法】

出席、レポートおよび試験の総合評価とする。

【教科書】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献】

上野谷加代子・松崎千洋・松端克文編『松江市の地域福祉計画』ミネルヴァ書房、2006年。
 ・定籐丈弘・坂田周一・小林良二編『社会福祉計画』有斐閣、1996年。
 ・島津淳・鈴木眞理子編『地域福祉計画の理論と実践』ミネルヴァ書房、2005年。
 ・武川正吾編『地域福祉計画』有斐閣、2005年。
 ・牧里毎治・野口定久編『協働と参加の地域福祉計画』ミネルヴァ書房、2007年。
 その他、講義中に適宜紹介する。

【備考】

受講者数に合わせて、バズセッション、グループ発表等を講義に合わせて展開する可能性がある。そのため、講義には積極的に参加して欲しい。

科 目 名

社会福祉原論

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。
- 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
- 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
- 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 専門性と専門職の内容
 - 2) 職業観及び勤労観
 - 3) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 4) 社会福祉援助活動と倫理
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
- 6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 社会保障制度
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向

【成績評価の方法】

出席（20％）及び試験（80％）で評価する

【教科書】

福祉士養成講座編集委員会 社会福祉原論 中央法規出版

【参考文献】

適宜紹介する

さ
行

科 目 名			
社会福祉施設サービス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

本講は社会福祉施設での支援論あるいはサービス論である。今日、日本の社会福祉従事者は150万人を超えているが、その7割以上が社会福祉施設の職員である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。

日本では、今日でも社会福祉施設が重要な位置を占めているにもかかわらず、社会福祉施設の職員が（大学で学んだ知識や技術を活かして）ソーシャルワークの実践をしていくという観点から整理され、体系化された理論や方法はほとんどない。また、地域福祉の重要性が指摘されているにもかかわらず、社会福祉施設と地域福祉との関係が積極的に論じられることもほとんどない状況である。

そこで本講では、介護保険法改正や障害者自立支援法の内容を分析した上で、ソーシャルワーク実践の場としてのこれからの社会福祉施設での支援・サービスの方向を地域福祉の観点もふまえて明らかにしていく。

【講義計画】

1. 社会福祉施設の概要
一歴史、制度体系と種別、利用者数など一
2. 社会福祉施設サービス・運営の仕組みと課題
3. ノーマライゼーションの思想と脱施設化
4. 介護保険制度改正と社会福祉施設
5. 障害者自立支援法と社会福祉施設
6. 社会福祉施設と地域福祉
7. 社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践
8. ケアプラン、個別支援計画の考え方と書き方
9. 社会福祉施設のサービス評価、苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動
10. 事例検討

【成績評価の方法】

出席と試験で総合的に評価する。

【教科書】

松端克文 障害者の個別支援計画の考え方・書き方 日総研出版

科 目 名			
社会福祉特講ーマスコミから見た福祉課題			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

本講は、読売新聞社によって提供されるものである。

今日の社会保障・社会福祉は、制度としては大きくなったが、少子高齢社会の到来や経済政策によって格差が顕著になるなどの新しい社会的問題も議論される転換期を迎えている。それだけに各種の制度改革の動向や内容、福祉課題を把握することは極めて重要である。

本講では、読売新聞社の編集委員の方を中心に、現場の記者や論説委員、医療情報部長、社会保障部長など、日ごろから取材し、執筆しておられる専門記者の方々にご登壇いただき、年金や医療、介護保険、子育て支援などの社会保障や社会福祉に関する最新の情報をさまざまな観点から講義していただく。

現実に社会で生じている事象をおさえながら、これからの社会や福祉のあり方を考える講義であるから、福祉領域で専門職として働くことを目指している学生諸君、またマスコミを希望する学生諸君の受講を歓迎する。

【講義計画】

- 第1回 ホームレスと生活保護
 - 第2回 少子高齢社会と年金改革
 - 第3回 高齢化と介護保険制度
 - 第4回 障害者スポーツ
 - 第5回 欧州の社会政策
 - 第6回 日本とヨーロッパの社会保障
 - 第7回 医療・健康・メディアの役割
 - 第8回 NPOとNGO
 - 第9回 緩和医療
 - 第10回 犯罪弱者の安全・安心
 - 第11回 精神医療と福祉
 - 第12回 介護職のいま
 - 第13回 少子化と子育て支援
 - 第14回 総括
- ただし、講師の都合で一部変更になることがある

【成績評価の方法】

出席と試験による

【教科書】

用いない

【参考文献】

講義資料を配布する

【備考】

インテグレーション科目であるから、講師の都合で一部変更になることがあるが、学期初めのオリエンテーションで連絡するインテグレーション科目

科 目 名			
社会福祉発達史 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	木 村 和 世

【講義概要・学習目標】

明治後期の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。福祉史を身近なものとして把握するために、南河内地方の農村や新聞記者の目を通した大阪の町の変遷や路地裏に生きる人々の生活をみていく。福祉史は単に過去の出来事を勉強するだけでなく、現在を見る眼を養ってほしい。

【講義計画】

1. 明治期の恤救規則と南河内の村々
2. 社会問題の発生と社会事業
3. 大正期—都市リベラリズムの光と影
4. 大阪毎日新聞記者 村嶋歸之と大阪
5. 社会事業から厚生事業へ
6. 1945年・大阪
7. 戦後の社会福祉の展開

【成績評価の方法】

出席を重視する
テスト、レポートについては講義時に指示する

【教科書】

- ・木村和世『路地裏の近代史』（昭和堂）（予定）
- ・プリントを必要に応じて配布する

【参考文献】

芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』

科 目 名			
社会福祉フィールドワーク			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

社会福祉の基本である施設などの現場に出向いて、活動場所を理解し、対象者を理解し、活動内容を理解するために、1ヶ月に一度程度、ボランティアな活動をします。そのために必要な対象者や活動の理解のための講義を聞きます。

【講義計画】

- 1 授業の概要と評価
- 2 活動ガイダンス1
- 3 活動ガイダンス2
- 4～6 対象者、活動場所の理解
- 7 活動のマナーとルール
- 8 個人情報と守秘義務
- 9 観察と記録
- 10～13 活動の振り返り
- 14 問題とその対処
- 15 夏休み中の活動の報告
- 16～19 活動の技術
- 20 受け入れ先の意見
- 21～22 パワーポイントの作り方
- 23～26 活動の振り返り
- 27～28 全体報告会

【成績評価の方法】

出席数、提出物、活動記録を総合的に評価します。

【教科書】

特になし

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

<08SW生>のみ対象

科 目 名			
社会福祉フィールドワーク			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	益 田 博

【講義概要・学習目標】

社会福祉の基本である施設などの現場に向いて、活動場所を理解し、対象者を理解し、活動内容を理解するために、1ヶ月に一度程度、ボランティアな活動を行います。そのために必要な対象者や活動の理解のための講義を聞きます。

【講義計画】

- 1 授業の概要と評価
- 2 活動ガイダンス1
- 3 活動ガイダンス2
- 4～6 対象者、活動場所の理解
- 7 活動のマナーとルール
- 8 個人情報と守秘義務
- 9 観察と記録
- 10～13 活動の振り返り
- 14 問題とその対処
- 15 夏休み中の活動の報告
- 16～19 活動の技術
- 20 受け入れ先の意見
- 21～22 パワーポイントの作り方
- 23～26 活動の振り返り
- 27～28 全体報告会

【成績評価の方法】

出席数、提出物、活動記録を総合的に評価します。

【教科書】

特になし

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

<08SW生>のみ対象

科 目 名			
社会福祉法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	瀧 澤 仁 唱

【講義概要・学習目標】

1. 社会福祉の法体系及び関係法の概要を理解させる。
2. 社会福祉の実施体制の概要を理解させる。
3. 社会福祉の財政の構造及び社会福祉における費用徴収制度を理解させる。
4. 我が国における公私の役割を理解させる。

【講義計画】

1. 我が国における社会福祉行政の歴史的展開
2. 社会福祉法制の概要
 - 1) 福祉六法を中軸とする社会福祉法制の概要
 - 2) 社会福祉法を中軸とする社会福祉の法的基盤(民生委員法、日本赤十字社法、社会福祉・医療事業団法を含む)
 - 3) 関連法の概要(介護保険法、売春防止法、災害救助法、戦傷病者特別援護法等)
 - 4) 社会福祉計画(老人保健福祉計画、障害者計画、児童健全育成計画、地域福祉計画)
 - 5) 地方自治体の独自事業
3. 社会福祉の実施体制(国と地方の役割、行政機関と関係機関、措置制度)
4. 社会福祉の財政と費用負担
5. 社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方

【成績評価の方法】

論述式筆記試験

【教科書】

山田耕造編 テキストブック現代社会福祉法制 法律文化社
より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法(2008年版)(出版社はどこでもよい)又は『社会福祉六法 2008(平成20)年版』(新日本法規)

必要に応じ一部条文はコピーしてわたしますので、特別に専門的な学習のために必要な方以外は購入する必要はありません。

科 目 名			
社会保障論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	赤 井 朱 美

【講義概要・学習目標】

少子化の進行と社会保障との関係は？年金問題や医療費増大などほぼ毎日のように社会保障に関する報道がされているが、多くの人は問題の所在を捉えきれていない。制度内容を理解しきれていないからである。本講では社会保障の思想と現代社会における社会保障の理念、社会保障と社会福祉の意義の相違及び社会保障の各制度の概要について講義する。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 雇用保険
 - 6) 家族手当（児童手当）
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度
- 4 日本の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
- 5 日本の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 6 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 7 社会保障の実施体制及び専門職

【成績評価の方法】

論述式を中心とした試験による素点評価（定期末試験を予定しているが、前後期試験のいずれかを受験しなかった者は、単位認定できない。）。

【教科書】

福祉土養成講座編集委員会 新版社会福祉士養成講座「社会保障論」中央法規

【参考文献】

「社会保障年鑑2005年版」ほか、講義の中で適宜紹介する。

科 目 名			
宗教社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	清 水 夏 樹

【講義概要・学習目標】

科学的合理性を追求したはずの近・現代人は今日、様々な宗教問題に直面することになった。この逆説性に留意し、わがくにの宗教史、民俗信仰もふまえ、E・デュルケイム、M・ウェーバーをはじめ先人の業績をまなぶ。その上で宗教ブームといわれる今日の側面—たとえば主婦層や青年世代にみられる宗教回帰の傾向、オカルト・神秘主義への趣向などにも目を向け現代人がかかえる、あるいは現代社会に投げられた“影”の部分の部分をよみ解く上での分析の一助としたい。

随時資料、プリントを配布、それらをもとに必要に応じ簡易テストやレポート提出を試みる

【講義計画】

〈前期〉聖と俗、わが国固有信仰と祭りの習俗、修験道等伝統儀礼にみるシンボルの動態構造、宗教の世俗化とその逆反現象—同じく再生（再聖化）とdemonization、未開社会の原始宗教—デュルケイムほかモースの研究事例から：贈答の慣習にみる呪術儀礼。
 〈後期〉神仏習合にみる日本人の信仰心の特徴、その前史的基盤、日本近代化の舞台裏を担うものとしての新宗教教団の意義、経済発展と宗教倫理との逆説的な関係、（ウェーバー：予定説と初期上昇期資本主義）近・現代社会のひずみと宗教ブーム、上記「聖」「俗」による分析枠組の見直し、「遊」フレームの介在と脱—世俗志向。

注：上記の要項は内容上、個別に連動する側面をもち、前・後期にわたり錯綜することがある点断っておく。

【成績評価の方法】

学年末試験
 ほか提出レポート、簡易テスト

【参考文献】

教科書及び参考テキストは随時指示する。

さ
行

科 目 名			
生涯学習概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	尾 谷 雅 彦

【講義概要・学習目標】

現在、生涯学習という言葉が氾濫している。しかし、その定義は使う人の立場によって変化する。つまり、それほど内容が豊かなものである。本講義では、生涯学習の考え方そして生涯学習の重要な支援領域である社会教育について講義する。特に実践面としての社会教育行政の基本事項とその実態、問題点をとりあげる。

【講義計画】

1. 生涯学習とは
2. 生涯学習と社会教育
3. 生涯学習、社会教育の施策
4. 社会教育の意義と社会教育行政
5. 社会教育の内容と方法①
6. 社会教育の内容と方法②
7. 社会教育の歴史
8. 社会教育の指導者
9. 社会教育の施設
10. 学習情報の提供
11. 学習相談の意義
12. 昨今の社会教育行政の課題①
13. 昨今の社会教育行政の課題②
14. 昨今の社会教育行政の課題③
15. 試験

【成績評価の方法】

出席を重視。100点満点で配点は2/3以上の出席（確認の為の当日レポート提出）で50点、試験50点。但し5回以上の欠席は0点とする。

【教科書】

特になし、講義中に適時プリントを配布する。

【参考文献】

- 『生涯学習概論』山本恒夫編著 東京書籍
『図書館員のための生涯学習概論』朝比奈大作 日本図書館協会
『学習プログラムの技法』岡本包治他 実務教育出版

科 目 名			
生涯学習概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	尾 谷 雅 彦

【講義概要・学習目標】

現在、生涯学習という言葉が氾濫している。しかし、その定義は使う人の立場によって変化する。つまり、それほど内容が豊かなものである。本講義では、生涯学習の考え方そして生涯学習の重要な支援領域である社会教育について講義する。特に実践面としての社会教育行政の基本事項とその実態、問題点をとりあげる。

【講義計画】

1. 生涯学習とは
2. 生涯学習と社会教育
3. 生涯学習、社会教育の施策
4. 社会教育の意義と社会教育行政
5. 社会教育の内容と方法①
6. 社会教育の内容と方法②
7. 社会教育の歴史
8. 社会教育の指導者
9. 社会教育の施設
10. 学習情報の提供
11. 学習相談の意義
12. 昨今の社会教育行政の課題①
13. 昨今の社会教育行政の課題②
14. 昨今の社会教育行政の課題③
15. 試験

【成績評価の方法】

出席を重視。100点満点で配点は2/3以上の出席（確認の為の当日レポート提出）で50点、試験50点。但し5回以上の欠席は0点とする。

【教科書】

特になし、講義中に適時プリントを配布する。

【参考文献】

- 『生涯学習概論』山本恒夫編著 東京書籍
『図書館員のための生涯学習概論』朝比奈大作 日本図書館協会
『学習プログラムの技法』岡本包治他 実務教育出版

科 目 名			
障害者スポーツ論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	高 橋 明

【講義概要・学習目標】

一般にスポーツは、形態、体力、年齢、性別、技術等の違いを、用具やルールを工夫して行われている。障害者のスポーツも、一見特殊に見えるスポーツであっても、障害という「ハンディ」を施設や用具、ルールを工夫すれば健常者と同じスポーツが可能であるという理念の基に、すべて「Adapted Sport＝適応性のスポーツ」であるということを通して学び、視聴覚教材等も利用して、そうぞうりよく（想像力・創造力）を養えるような内容で、障害者に対する知識や理解、障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史や現状、そして、指導法等について講義する。

【講義計画】

- 第1回目 授業概要説明・ガイダンス 障害者のスポーツビデオ観賞
- 第2回目 パラリンピックの映像を通して、障害を理解する
- 第3回目 障害者と福祉・障害者の理解について
 - ①障害者の現状
 - ②障害者とスポーツの捉え方
- 第4回目 障害者と福祉・障害者の理解について
 - ①障害者とリハビリテーションの定義
 - ②リハビリテーションにおけるスポーツ
- 第5回目 障害者のスポーツ振興
 - ①障害者のスポーツの現状
 - ②障害者のスポーツの意義、効果
- 第6回目 障害者のスポーツの歴史と現状
 - ①医療スポーツとして
 - ②競技スポーツとして
 - ③国際大会の現状
- 第7回目 障害者と生涯スポーツの現状
 - ①障害者のスポーツの動向
 - ②障害者と生涯スポーツの動向
 - ③障害者と生涯スポーツの課題
 - ④スポーツ指導者制度(障害者スポーツ指導者制度)
 - ⑤ボランティア活動
 - ⑥障害者とスポーツ競技会の企画運営
- 第8回目 障害者のスポーツ指導と要点
 - ①一般的なスポーツ指導 ②指導の要点
 - ③スポーツの概念 ④障害者に対するスポーツ指導の原則
- 第9回目 障害者のスポーツ指導上の留意事項
 - ①指導上の留意事項
- 第10回目 障害別による運動処方と留意事項
 - ①運動処方にあたっての留意事項
- 第11回目 アダプトドスポーツの実技体験
 - ①肢体不自由者とスポーツ（車椅子バスケットボールほか）
 - ②視覚障害者とスポーツ（サウンドテニスほか）
 - ③聴覚障害者とスポーツ（陸上競技ほか）
 - ④知的障害者とスポーツ（フライングディスクほか）
 - ⑤精神障害者とスポーツ（ソフトバレーボールほか）
- 第12回目 施設見学（障害者スポーツ施設の見学）・まとめ
- 第13回目 テスト

【成績評価の方法】

出席重視 テスト レポート

【教科書】

高橋 明 障害者とスポーツ 岩波書店（岩波新書）
上記のテキスト2冊（1,000円）を使用します。購入方法は、授業の中で販売します。

高橋 明 障害者とスポーツ
自主制作冊子

科 目 名			
障害者福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	茅 原 聖 治

【講義概要・学習目標】

本講義の目的は、学生の皆さんに、障害のある人が地域社会の中で生活をするということは当たり前のことであるということを理解し、そしてそのためにはどのような支援が必要なのかについて考えてもらうことである。
教科書の内容を中心に講義を行うが、ビデオ教材を用いたり、障害のある人から直接話を聞いたりするなど、障害のある人が置かれている現状やこれからの支援のあり方を具体的に理解できるように講義を進める。

【講義計画】

- ・障害者福祉の考え方
- ・障害の概念と障害者の実態
- ・障害者福祉の歴史的展開
- ・障害者施策の体系
- ・障害者福祉のサービス体系
- ・障害者福祉の関連分野－教育・就労・雇用など
- ・障害者運動と当事者参加
- ・障害者に対する相談援助活動

【成績評価の方法】

出席、2回のレポートにより、総合的に評価する。

【教科書】

社会福祉士養成講座編集委員会（編）障害者福祉論（社会福祉士養成講座3）最新版 中央法規出版

【参考文献】

講義時に適宜提示する。

さ
行

科 目 名			
商業科教育法 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	沼 田 吉 昭

【講義概要・学習目標】

高等学校商業科教員を目指す学生を対象にした「高等学校教員（1種）免許取得」のための必修科目である。商業高校で授業を行うために必要な知識・技術の習得を目指す。

現在の商業教育は、学習指導要領にある科目以外にも学校設定科目が多くあり、学習内容は以前に比べ広範囲に渡っている。各商業高校はそれぞれ独自のカリキュラムで授業を行っている。各商業高校が実施しているカリキュラムの内容や、コース制・総合選択性・総合学科制などについて講義し、資格取得として商業高校で受験している各種資格試験・検定の紹介もする。その後、商業科の各科目について具体的に解説する。商業科の科目については演習を通じて知識・技術を習得する。また商業科教員としての自覚と責任・教育者としての人間力を磨くことも目標とする。講義では、年間指導計画、学習指導案の作成、学習指導法、教材研究、授業で使用する資料・問題プリントの作成、模擬授業を行い実践的な指導をする。

【講義計画】

1. 商業教育の意義と目的
2. 商業教育の変遷
3. 現在の高等学校の商業教育
4. 各商業高校のカリキュラム
5. 商業科目と学校設定科目
6. 学習指導法（模擬授業の展開）
7. 商業科目解説 I
8. 商業科目解説 II
9. 商業科目解説 III
10. 商業科目解説 IV
11. 商業科目解説 V
12. 学習指導計画と教育評価
13. 教員の研修制度
14. 職業資格制度と検定試験制度
15. 今後の商業教育の展望等

【成績評価の方法】

主として、出席・課題の提出を重視し、厳しく評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする

【教科書】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説（商業編）』実教出版

【参考文献】

適宜提示する。

【備考】

授業では、適宜プリントを配布する。

科 目 名			
商業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	金 光 明 雄
02	通期		金 光 明 雄
03	通期		中 村 恒 彦
04	通期		中 村 恒 彦

【講義概要・学習目標】

■学習目標 平成19年度日商簿記検定試験3級合格

（本講義では、日本商工会議所簿記検定3級を取得することを目的とします）

■講義概要 今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではありません。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つです。

商業簿記3級は、個人商店を前提として複式簿記による記帳（仕訳・勘定記入）の基礎および簿記一巡の処理の流れを学習していきます。期中処理では、商品売買に係る小切手、手形の取扱いおよびその他の記帳処理が重要な学習内容であり、決算においては、商品売買、受取手形・売掛金、固定資産の決算整理が重要項目となります。また、決算整理後の報告書（損益計算書、貸借対照表）の作成も重要な学習内容です。

【講義計画】

[講義計画]

第118回 日商簿記検定試験3級対策：4－6月

第119回 日商簿記検定試験3級対策：6－11月

第120回 日商簿記検定試験3級対策：11－2月

[講義内容]

- ①簿記の目的・取引・仕訳
- ②勘定口座への記入方法・試算表・商品売買の記帳方法・引取運賃及び発送費の記帳方法・手付金の記帳方法
- ③現金及び預金の記帳方法・手形の記帳方法（決済まで）
- ④手形の記帳方法（裏書譲渡から）・その他の勘定の記帳方法（有価証券・債権債務・収益・費用）
- ⑤その他の勘定の記帳方法（訂正仕訳）・主要簿及び補助簿（小口現金出納帳まで）
- ⑥主要簿及び補助簿（受取手形記入帳から）・伝票
- ⑦決算・決算整理（売上原価の計算）・英米式決算法
- ⑧精算表・その他の決算整理（貸倒れ・減価償却）
- ⑨その他の決算整理（有形固定資産の売却・繰延べ・見越し・消耗品費と消耗品）
- ⑩その他の決算整理（現金過不足・現金・売買目的有価証券・引出金）
- ⑪直前対策総まとめ講義（予定）
- ⑫直前対策 I
- ⑬直前対策 II
- ⑭直前対策 III
- ⑮直前対策 IV
- ⑯公開模擬試験
- ⑰検定問題の解説

【成績評価の方法】

単位修得条件：日商簿記検定試験3級合格（合格点70点）

日本商工会議所の簿記検定は、年三回（6月・11月・2月）に実施されています。

【教科書】

大原簿記学校 ALFA 3級商業簿記テキスト

※第一回目から講義をおこないますので、必ずテキストを生協にて購入して受講してください。

大原簿記学校 ALFA 3級商業簿記ドリル

大原簿記学校 ALFA 3級商業簿記アンサー

【参考文献】

必要があれば、適宜指示します。

【備考】

・重要な連絡は、講義内および掲示板にて行いますので、どうしても欠席しなければならない場合は掲示板をよくみてください。

・また、上記連絡は、学校のメールアドレスにも配信しますので、携帯メールへの転送設定を怠らないようにしてください。
 <08B生>のみ対象

科 目 名			
商業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期集中	4単位	河 合 隆 治
06	春学期集中		金 光 明 雄
07	秋学期集中		中 村 恒 彦
08	秋学期集中		金 光 明 雄

【講義概要・学習目標】

今日の社会において企業の影響力が増大するにつれ、人々は自己の利益を守るために企業の動向に強い関心をもち、企業に関する情報を必要としています。そのような情報は多くの源泉から入手することができますが、企業活動の経済的側面についての最も優れた情報源泉は企業の会計が生み出す財務諸表です。しかしこの財務諸表は簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。簿記は、企業の財政状態や経営成績を知るうえで不可欠な知識となります。

この講義では、ほとんどの企業で用いられている複式簿記について、その基本構造を理解し、記帳技術を習得することを目標とします。ここで複式簿記とは、企業が行う商品売買などの取引を二面的に把握・記録するための体系的な技術を指します。

具体的には、企業活動に伴う取引の記帳からはじまり財務諸表の作成にいたるまでを、(1) 複式簿記の基礎概念、(2) 諸取引の会計処理、(3) 決算と財務諸表、の順に解説していきます。また、講義の理解を深めるために、計算演習を多く取り入れる予定です。

この講義を終えることによって、日商簿記検定3級程度の簿記の知識を得ることができ、財務諸表論、会計学原理、株式会社会計、原価計算システム、管理会計論、税務会計、監査論、経営分析といった科目を学習するための基礎が形成されます。

【講義計画】

- 第1回：簿記の基礎概念、資産・負債・純資産と貸借対照表、収益・費用と損益計算書
- 第2回：簿記上の取引
- 第3回：仕訳
- 第4回：勘定記入
- 第5回：帳簿と証ひょう
- 第6回：第1回から第5回までの復習
- 第7回：現金預金取引
- 第8回：商品売買取引（その1）
- 第9回：商品売買取引（その2）
- 第10回：売掛金・買掛金
- 第11回：その他の債権・債務
- 第12回：第7回から第11回までの復習
- 第13回：手形取引（その1）
- 第14回：手形取引（その2）
- 第15回：有価証券
- 第16回：固定資産
- 第17回：資本金と引出金、税金
- 第18回：第13回から第17回までの復習
- 第19回：決算と財務諸表（決算予備手続～試算表の作成）
- 第20回：決算と財務諸表（決算本手続～決算整理仕訳）
- 第21回：決算と財務諸表（決算本手続～振替仕訳）
- 第22回：決算と財務諸表（決算本手続～仕訳帳・総勘定元帳の締切り、繰越試算表の作成）
- 第23回：決算と財務諸表（財務諸表の作成）
- 第24回：決算と財務諸表（精算表の作成）
- 第25回：第19回から第24回までの復習
- 第26回：総合問題演習（その1）
- 第27回：総合問題演習（その2）
- 第28回：総合問題演習（その3）

【成績評価の方法】

期末試験（100点満点）で評価します。

【教科書】

加古宜士・渡部裕互・片山覚 新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記、平成20年版。中央経済社

【参考文献】

加古宜士・渡部裕互・片山覚（編著）『新検定 簿記講義 3級』中央経済社、2007年。
 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）『現代簿記論』中央

さ
行

経済社、1992年。
 その他の参考文献については、必要に応じて授業の中で指示します。

【備考】

<02～07B生>のみ対象

科 目 名			
証券論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 尾 順 介

【講義概要・学習目標】

近年証券市場は急速に身近なものとなっている。このことはライブドアや村上ファンドの事件だけでなく、皆さんが上場企業に就職した場合、その会社は日々株式市場と直面し、敵対的買収に会うかもしれない。大企業だけでなくベンチャー起業家にとっても、証券市場は樹木の根のような不可欠な要素（資金調達手段）である。また、従業員も社員持ち株制度やストックオプション制度で、株式を持つことが多くなった。さらに、インターネット取引は、一般の人々の株式投資を身近なものにした。他方、フィナンシャルプランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要不可欠である。本講義は、株式市場を中心に、証券市場の基本的な制度やルール、さらにその実態の理解を目的とする。証券市場を「ずるがしこく儲ける所」と理解している人も多いが、実は「ルールのかたまり」であり、ルールを順守することで成り立っていることを理解してほしいと思っている。講義内容は、株式の基本からデリバティブまでを対象として講義する予定である。

【講義計画】

1. はじめに
- 2～6. 第1章 株式の基礎（1～5）
- 7～9. 第2章 株式の持ち合いと企業買収
- 10～13. 第3章 株式発行（1～4）
- 14～15. 第4章 株式の流通（1～3）
- 16～18. 第5章 証券取引所の役割（1～3）
19. 第6章 株価指数と投資尺度
- 20～22. 第7章 信用取引（1～3）
- 23～25. 第8章 先物取引（1～3）
- 26～28. 第9章 オプション取引（1～3）

【成績評価の方法】

期末テストで評価する。ただし、毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加点する。また、課題提出にも加点する。なお、出席点は一切考慮しない。

【参考文献】

日本証券経済研究所編『詳説 日本の証券市場2004年版』日本証券経済研究所
 証券広報センター編『証券市場2005』中央経済社
 東京証券取引所編『入門 日本の証券市場』東洋経済新報社
 川村雄介著『最初に読みたい株の教科書』朝日新聞社
 川村雄介著『最新証券市場』財経詳報社

科 目 名			
商法 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

経済社会における中心的な法主体としての会社、とりわけ株式会社に関する法規整の理解を目指す。

会社の設立、その機関構成と運営のルール、さらには解散に至るまでの基本的な法制度を一貫して学修することは、経済社会に身を置くものにとって有益であり、また必要であると考え。経済社会の動向に影響されることの多いこの分野は、現在に至るまで頻繁に法改正が行われており、2005年に商法典から分離した形で新会社法が成立した（2006年5月施行）。膨大な会社法本体の条文に加えて、会社法施行規則、会社計算規則を擁するすべてを扱うことは困難である。したがって、授業では、技術的な部分は除外し、会社法の根幹をなす制度の理解を中心に据えることになる。とはいえ、必要に応じて金融商品取引法の検討は行っていくことにする。

民法は履修済み（あるいは履修中）であることが望ましい。

【講義計画】

概ね、次に掲げる講義計画に沿って進めるが、その時々話題となっている具体的な事例や会社関係の事件を適宜取り入れて、できるだけ新しい素材を使った授業をしたい。

1. 会社とは（会社法の概要）
2. 株式会社の設立手続、機関設計
3. 株式とは
4. 株式取引の仕組みと法規制
 - (1) 株式譲渡の仕組み
 - (2) 譲渡制限
 - (3) 公開買付
 - (4) 金融商品取引法による規制
 クイズ
5. 株式会社の組織と運営
 - (1) 機関総論
 - (2) 株主総会
 - (3) 業務執行・会社代表
 - (4) 監査機関
6. 資金調達
 - (1) 募集株式の発行等
 - (2) 新株予約権
 - (3) 社債の発行
 クイズ
7. 株式会社の計算
 - (1) 計算規定の趣旨
 - (2) 計算書類の作成と承認
 - (3) 剰余金の配当
8. 会社の解散及び清算
9. 企業再編
 - (1) 合併
 - (2) 事業譲渡
 - (3) 会社分割
 - (4) 株式交換、株式移転
10. 持分会社

【成績評価の方法】

試験の方法による。なお、授業中行う確認のためのクイズも評価に加算する。

【教科書】

酒巻俊雄・尾崎安央編「新会社法」青林書院
六法

出版社は問わないが、最新版を用意すること。昨年度のものでも使えません。毎回必ず持参すること。

【参考文献】

会社判例百選[第6版]（有斐閣）
倉沢・奥島・森『判例講義 会社法』（悠々社）
その他、授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
商法 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

この講義では、商法のうち会社法について講述する。会社法といえは会社のすべての法律問題を扱うものと誤解されがちだが、実際には会社法の守備範囲は限定的なものである。具体的には授業計画に記した通りであり、学生諸君にとってはいかにも疎遠な内容であろう。「会社勤め」をする人にとっても、ほとんど役に立ちそうにもない話ばかりである。さらに、他の法律と比較しても煩瑣で技術的な規定が極めて多いのが、会社法の特徴といえる。こうした会社法の特徴をよく認識した上で受講するようにしてもらいたい。

毎授業時に『六法』を携帯すること。私語は厳禁。その他受講時の留意事項について、最初の授業時に説明する。

【講義計画】

- 第1回 会社法の歴史と構成
- 第2回 会社の法的性質
- 第3回 会社の種類
- 第4回 法人格に関する問題
- 第5回 株式会社の設立手続
- 第6回 株式会社の定款
- 第7回 株式の仮払込等
- 第8回 株主の権利・義務
- 第9回 種類株式
- 第10回 株式譲渡
- 第11回 自己株式等
- 第12回 株主総会の権限
- 第13回 株主総会の招集・議事
- 第14回 株主総会の決議
- 第15回 取締役
- 第16回 取締役・会社の関係
- 第17回 取締役会
- 第18回 会計参与・監査役・会計監査人
- 第19回 委員会設置会社
- 第20回 役員等の責任
- 第21回 株式の発行
- 第22回 新株予約権
- 第23回 社債
- 第24回 計算書類
- 第25回 資本金・準備金
- 第26回 配当
- 第27回 合併・営業譲渡
- 第28回 分割等
- 第29回 まとめと補論
- 第30回 学期末テスト

【成績評価の方法】

正誤文選択による短答式の学期末テストを予定している。ちなみに、昨年度は各問いずれも4肢選択方式の計20問（1問5点、計100点）でテストを実施したが、受験者の3分の1が不合格であった。

【教科書】

菅野和夫ほか（編）『ポケット六法 平成21年版』有斐閣

*他社の『六法』でも可。

*平成21年版が出版される10月中旬までに関しては、最初の授業時に指示する。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
商法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	牛 丸 與志夫

【講義概要・学習目標】

わが国において、手形・小切手が企業の支払い手段として重要な役割を果たしている。そこで、講義では手形および小切手の法規制の基本的な知識と応用力の取得を目標とする。

【講義計画】

講義は、まず、国内取引で頻繁に使われている約束手形について行い、続いて、為替手形および小切手について行う。以下の順番で行う。

- 手形・小切手の意義と機能
- 手形の特性
- 約束手形の振出
- 約束手形の移転
- 手形所持人の保護
- 約束手形の支払
- 為替手形の特色
- 小切手の特色
- 手形・小切手に共通する制度

【成績評価の方法】

小テストおよび期末試験で評価する。

【教科書】

木村秀一 判例手形小切手法 中央経済社

科 目 名			
商法Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

主に商法総則及び商行為法を対象とする。商法総則は主に個人企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は法人を含む企業取引に関する通則的な規定として位置づけられる。もともと本講義の対象とすべき範囲は広がっており、また直面する問題も多く、法規制の進展は著しい。したがって、そのような情報も、できるだけ折り返し込みたいと考えている。

基幹科目としての民法を学んだ者が、この分野も学ぶことで、企業に特有のルールの必要性を認識し、かつその仕組みを理解することを目標とする。したがって、民法に関し総則の部分は履修済みであることが望ましく、契約の部分が履修済み（履修中）であれば、とりわけ商行為法の理解に有益です。

【講義計画】

オリエンテーションの後、以下のような順で行う。

1. 商法とは 商法の形成と展開
2. 商法の適用範囲
3. 商人とその営業 商人概念 商人資格の得喪
4. 企業の物的要素 商号 商業帳簿
5. 企業の人的要素 商業使用人
6. 企業の公示・商業登記
7. 企業の移転・担保化 営業譲渡
クイズ
8. 企業取引総論
9. 商行為総則 契約の成立 契約の効力 担保
10. 企業取引の補助者 代理商 仲立人 問屋
11. 消費者契約 民法と商法の交錯
12. 商事売買に関する法制度
クイズ
13. 運送取引
14. 倉庫営業
15. 場屋営業
16. 金融取引 交互計算 匿名組合 リース取引
17. 証券取引
18. 保険取引 損害保険 定額保険

【成績評価の方法】

試験の方法による。なお、授業中行う確認のためのクイズも、評価に加算する。

【教科書】

落合誠一・大塚龍児・山下友信 商法Ⅰ－総則・商行為[第3版補訂版]

六法

出版社は問わないが、最新版を用意すること。毎回持参してください。

【参考文献】

別冊ジュリスト商法（総則商行為）判例百選（有斐閣、2002）
その他、授業中に紹介します。

科 目 名			
情報科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	平 井 尊 士

【講義概要・学習目標】

日々、進展する情報化社会にあって、高等学校における普通教科・専門教科「情報」においては、

- ①情報活用の実践力
- ②科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

を系統的・体系的に習得・育成させることが求められている。

この本授業においては、その教育目標を達成するために、教科構造、ねらい、内容、指導法について、系統的・体系的に理解するとともに、授業実施に当たって必要とされる指導計画、教材研究、授業設計、単元設計、実施、評価、改善等に関する理解・能力を体験的に習得する。

授業の形態は、講義、演習、模擬授業を組み合わせて展開する。

更に定期的に課題を必ず課す。

なお、受講生への連絡は大学の電子メールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。

また表計算、プレゼンテーション等、コンピュータ入門程度の基礎技術は習得していることが望ましい。

【講義計画】

- ・ ①IT革命の現状と展望
- ・ ②初等中等教育における「情報」教育の役割と課題
- ・ ③「情報」の教科構造
- ・ ④学習指導要領における普通教科「情報」の目標と内容
- ・ ⑤学習指導要領における専門教科「情報」の目標と内容
- ・ ⑥「情報」の授業の実際
- ・ ⑦年間指導計画の作成
- ・ ⑧単元指導計画の作成と内容の取り扱い
- ・ ⑨教材研究の実際
- ・ ⑩学習指導案の作成
- ・ ⑪模擬授業及び評価と改善（授業時間の許す限り）
- ・ ⑫まとめ

【成績評価の方法】

課題への取り組み、期末課題、模擬講義等を総合して評価する。出席点については各授業通年をとおして1回0.5点（通年で約最大15点）とする。

【参考文献】

高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版
 情報科教育法 岡本敏雄 丸善
 情報科教育法 大岩元 オーム社
 情報科教育法 河村一樹 彰国社
 情報科教育法 本村猛能 学術図書出版

その他講義の進行状況に応じて指示する。

科 目 名			
情報化組織論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	牧 野 丹 奈 子

【講義概要・学習目標】

情報化社会の今日、企業には新しい知識を次々と生み続けることが求められている。しかし、画期的な知識を生み続けることは易しいことではない。

では、どのような組織ならば、新しい画期的な知識を次々と生み出せるのか。どのような組織構造や職場が望ましいのか。

このような問題に対して、企業組織をひとつの“システム”とみなしながら取り組むことが、本講義の学習目標である。

つまりこの講義では、“情報化社会では、どのような組織が成功するのか”を、システム論や事例研究を用いながら学習することになる。

毎時間、「聴く」だけでなく、「考える」講義を目指したい。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（注意事項と基礎知識）
- 第2回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か（1）
- 第3回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か（2）
- 第4回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か（3）
- 第5回 情報化社会で個人に必要な能力とは何か（1）
- 第6回 情報化社会で個人に必要な能力とは何か（2）
- 第7回 情報化社会で個人に必要な能力とは何か（3）
- 第8回 組織をどのようにとらえるか（1）
- 第9回 組織をどのようにとらえるか（2）
- 第10回 どのような職場がよい職場か（1）
- 第11回 どのような職場がよい職場か（2）
- 第12回 どのような職場がよい職場か（3）
- 第13回 情報と物質とのちがい
- 第14回 総復習と理解度チェック

【成績評価の方法】

試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。

【教科書】

牧野丹奈子 経営の自己組織化論 日本評論社

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	1単位	都 築 泉

【講義概要・学習目標】

図書館の利用者に対するサービスとして、オンライン・オンディスクのデータベースの提供は、現在、大変重要なものとなっている。データベースを利用して種々の情報を引き出す業務を担当する専門家はサーチャー（インフォメーション・スペシャリスト）と呼ばれ、大学図書館・公共図書館・企業内図書館などで活躍している。一方、図書館の役割としては、情報管理者としての立場から利用者が利用しやすい環境を整備することが求められている。

ここでは、1級と2級の上級サーチャーの前段階としての情報検索基礎能力試験（(社)情報科学技術協会が行う）を目標において、実践を交えながら学習する。

当講義の受講には、第1回の講義までに次の条件を満たしておくこと。

1. E-mailアドレスを取得し、メールの送受信ができるようにしておくこと（学内LANのそれでよい；携帯メールは対象外）。
2. パソコンキーボードの操作・入力ができること。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報の生産と流通、情報管理
- 第3回 情報検索の基本 1-主題分析、一次情報と二次情報
- 第4回 情報検索の基本 2
- 第5回 情報検索とコンピュータ・インターネット
- 第6回 情報検索の実際-I
- 第7回 情報利用の問題点
- 第8回 情報検索の実際 II
- 第9回 情報の組織化
- 第10回 データベースの歴史、種類等
- 第11回 情報検索の実際 III
- 第12回 調査結果のまとめと活用 I
- 第13回 調査結果のまとめと活用 II
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

テスト 50%
平常点（レポートを含む） 50%

【教科書】

情報科学技術協会 情報検索の基礎知識 新訂版 情報科学技術協会
発行：2006年7月31日

【参考文献】

1. 「情報検索の知識と技術」（情報科学技術協会）2500円
著者： 時実象一、小野寺夏生、都築泉
ISBN： 978-4-88951-045-4
2007年5月31日発行
2. 「資料・メディア総論 第2版」（学芸図書）2,310円
監修著： 志保田務・山本順一
ISBN 978-4-7616-0397-7
2007年11月25日第2版発行

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1単位	山 本 順 一

【講義概要・学習目標】

生涯学習社会の今日、市民一人ひとりが必要とする情報にアクセス、入手するスキルは必須不可欠である。この演習科目は、公共図書館や学術図書館、専門図書館などで行われている情報検索実務にふれるとともに、その情報探索の技法を身につけることを目的とする。それぞれの単元を専門的実務家が担当する‘インテグレーション科目’として実施する。情報検索に関する資格試験に合格できる程度のスキルを身につけることを目標とする。

【講義計画】

ゲスト講師との交渉や日程調整の関係で、若干の内容の変更や順序が前後することがある。

- 1 ‘情報検索演習’の意義と目的
- 2 情報検索の基礎知識
- 3 情報検索スキルの専門性
- 4 情報ニーズとそれに対応する情報検索技法
- 5 データベース・電子ジャーナル入門
- 6 フリー・データベース、フリー・ジャーナルの活用
- 7 公共図書館とデータベース等の利用
- 8 有料データベース利用のテクニック
- 9 特許情報の基礎知識と検索
- 10 STM（科学・技術・医学）情報の基礎知識と検索
- 11 情報検索技法の専門性診断 I
- 12 情報検索スキルに求められる英語知識
- 13 情報検索技法の専門性診断 II
- 14 情報検索スキル到達度の確認
- 15 テスト

【成績評価の方法】

出席率と演習への参加態度、課題への取組みと成果、学期末試験を総合して評価する。
この演習を楽しんで受講し、一定水準の情報検索スキルが身につけば、単位取得は問題ない。

【教科書】

情報科学技術協会 情報検索の基礎知識 新訂版 情報科学技術協会

【備考】

インテグレーション科目

科目名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	秋学期	1単位	川崎千加

【講義概要・学習目標】

私たちが情報を検索するときは、何らかの情報ニーズを持ち、様々なキーワードを用いて検索を行う。日常多くの人々がインターネットを通じて、たいていの情報を得たつもりになっている。しかし、司書としての情報検索は、多様なメディアの特性を知り、それぞれのテーマに合った適切な情報源を選択し、検索に有効なキーワードを設定し、より早く、より信頼性の高い情報を提供することが求められる。

この講義では、インターネット上の有効に活用できるデータベースについて、その選択、利用法を実際の検索を通じて学ぶ。インターネット上の情報源を知り、その特性を理解して活用することは、デジタルリファレンスをはじめ図書館の情報サービスに不可欠なものとなっている。同時に、そうしたインターネット上の情報源の欠点についても十分理解し、従来のリファレンスブックや図書館が提供するデータベースなどの有効な活用方法についても理解を深め、多様なメディアを活用した情報検索法を身につけることを目標とする。なおこの授業ではe-learningシステムを使用しており、毎回講義内容からのテストと課題の提出を求める。

【講義計画】

1. 一次情報と二次情報
2. 書誌検索（国内）主題分析
3. 書誌検索（海外）シソーラス
4. 書誌検索国内（主題分析）
5. 書誌検索：海外
6. 雑誌情報・雑誌記事の検索
7. 新聞ニュース検索
8. 一般的情報の検索
9. 主題検索：人物・人名情報の検索
10. 主題検索：団体・企業情報
11. 主題検索：法律情報の検索
12. 主題検索：政治・経済検索
13. 主題検索：統計情報検索
14. 主題検索：生活情報検索

【成績評価の方法】

実習姿勢30%、毎週の課題提出40%、毎週の小テスト30%の配分で評価する。

この授業では講義内容から小テストが出題される。講義内容を記録したWeb上のノートと遅刻・早退を含む出席状況が実習姿勢であり、講義出席状況はほぼそのまま小テストの点数に直結するものとなっている。

【教科書】

指定しない

【参考文献】

『インターネットで文献探索』 2007年版 伊藤 民雄 著 実践女子大学図書館 著 日本図書館協会 1,890円 2007年06月 発行

『情報検索の基礎知識』新訂版. 原田智子・岸田和明・小山憲司 著. 情報科学技術協会. 2006. 7

『情報源としてのリファレンスブック』新版 長澤雅男・石黒祐子 著 日本図書館協会 2004.06

科目名			
情報検索論A			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

情報検索について、文系、社会科学系からのアプローチをする。「情報検索」がどういうものを指し、どういったところで活かれているか、今日的にどのような価値を有するかを論じるその上で、技術的な把握、たとえば、各種検索エンジン、ゲートウェー、ポータルサイトなどの評価を行う。技術実習は、人数的な問題から、宿題にすることが多いが、これへの応答を学内ホームページ Nile 2 lesson tshihota及びメールで行う。なお、講義計画の「5」～「14」は<講義>-<演習>の2本立てである。

【講義計画】

- (1-2) 情報検索の意味的理解：定義、範囲、用語など
- (3-4) 情報検索の歴史面の理解：コンピュータ以前の情報検索
- (5-6) 現代社会と情報検索：コンピュータピア、生活と情報の検索
- (7-8) 実業、経営における情報検索の位相
- (9-10) 情報検索の空間（講義1、演習1、以下「14」まで同様）
- (11-12) 情報と著作権問題
- (13-14) 検索ルート：検索エンジン、有料・無料サイトなど
- (15-16) 検索機器：オンライン、オンデスク、モバイル、携帯電話
- (17-18) 検索内容パターンと、検索方法パターン
- (19-20) ファクトリトリバルとドキュメントリトリバル
- (21-22) ファクトデータベースとリファレンスデータベース
- (23-24) 雑誌情報
- (25-26) 図書館情報
- (27-28) 索引、索引作り
- (29) テスト

【成績評価の方法】

テスト（70%）、レポート（20%）、出席（10%）

【教科書】

第1回授業で指示する

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

さ
行

科 目 名			
情報検索論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

情報検索について、文系、社会科学系からのアプローチをする。「情報検索」がどのようなものを指し、どういったところで活かれているか、今日的にどのような価値を有するかを論じるその上で、技術的な把握、たとえば、各種検索エンジン、ゲートウェイ、ポータルサイトなどの評価を行う。技術実習は、人数的な問題から、宿題にすることが多いが、これへの応答を学内ホームページ Nile2 lesson tshihota及びメールで行う。なお、講義計画の「5」～「14」は<講義>-<演習>の2本立てである。

【講義計画】

1. 情報とは
2. 情報の歴史
3. 「情報」の基盤と移動
4. 情報検索
5. インターネット
6. 検索サイト
7. ネットサーフィン
8. インターネット上のルール
9. コンピュータ関連知識
10. 情報処理センターで得られる情報
11. 図書館で得られる情報
12. 大学図書館で得られる情報
13. ポータル
14. 図書館システムの特徴
15. 図書館のデータベース
16. 情報検索
17. 情報の電子化技術から電子図書館へ
18. 機関リポジトリ
19. インフォメーション・サーチャー
20. サーチャーの社会的役割
21. サーチャーの仕事
22. サーチャー業務の実状
23. システムアドミニストレータ概説
24. 大学生と情報化社会
25. 企業情報の収集：就職戦線
26. インターネットで就職情報を探す
27. 情報機器を利用したPR方法：情報活用成果としての表現力
28. 情報利用者から情報提供者へ
29. もっとシステムアドミニストレータへ（システム開発・運用管理、基幹システム開発支援、運用支援、システム環境整備）
30. テスト

【成績評価の方法】

テスト（70%）、レポート（20%）、出席（10%）

【教科書】

第1回授業で指示する

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

科 目 名			
情報サービス演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	1単位	谷本達哉

【講義概要・学習目標】

図書館の情報サービス（レファレンスサービス）とは、私たちが必要とする様々な情報要求（情報ニーズ）に対応するために準備されているサービスです。この科目では、講義科目「情報サービス概説」で学んだ知識に基づき、個々の利用者から寄せられるさまざまな情報ニーズ（質問）に対して、図書館の情報資源（レファレンスツール）を活用した情報提供（回答）の手法について習得します。演習形式の授業を取り入れて、図書館の情報サービス（レファレンスサービス）を実践的に捉えることを目標とします。

【講義計画】

情報サービス（レファレンスサービス）の実践について、次のような内容について学びます。

- 情報サービス（レファレンスサービス）入門
- 情報サービス（レファレンスサービス）のプロセス
- 情報源・レファレンスツールとその種類
- 文字・言語に関する質問
- 事物に関する質問
- 歴史・時事に関する質問
- 地理・地名に関する質問
- 人物・団体に関する質問
- 著作・図書に関する質問
- 逐次刊行物に関する質問
- 総合演習A
- 総合演習B
- 総合演習C
- レファレンスブックの解題（まとめ）

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題・演習、出席や受講態度を重視します。また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的で熱心な姿勢を求めます。

【教科書】

西田文男（監修・著）情報サービス：概説とレファレンスサービス演習・第3版 学芸図書

【参考文献】

適宜、必要なものについて授業の中で紹介します。

科 目 名			
情報サービス概説			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	谷 本 達 哉

【講義概要・学習目標】

わたしたちの身の回りに溢れる情報の海、自身が直面する様々な問題や疑問を解決するためには、必要とする情報を的確に入手する手段が求められます。この授業では、情報センターとしての図書館が提供する“わたしたちの情報アクセスのための手段＝「情報サービス」”について、総合的な理解とその重要性について考えます。

【講義計画】

図書館の情報サービスについて、毎回、次のような内容について論じます。

- 図書館の情報サービスとは何か
- 知りたいものを探するための基礎（情報サービス各論）
- 情報サービス簡単演習：知りたい・調べたいもの探し
- 情報サービス、調べものサービスの手法①
- 情報サービス、調べものサービスの手法②
- 情報サービス、調べものサービスの種類①
- 情報サービス、調べものサービスの種類②
- 情報サービス、調べものサービスの種類③
- 情報サービス、調べものサービスの道具：
（レファレンスツール）①
- 情報サービス、調べものサービスの道具：
（レファレンスツール）②
- レファレンスサービスと情報検索サービス
- 情報サービスの管理
- 情報サービスの理論
- 改めて、図書館の情報サービスとは（まとめ）

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題、出席や受講態度を重視します。また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的に熱心な姿勢を求めます。

【教科書】

西田文男（監修・著）情報サービス：概説とレファレンスサービス演習・第3版 学芸図書

【参考文献】

適宜、必要なものについて授業の中で紹介します。

科 目 名			
情報システム論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	芦 田 昌 也

【講義概要・学習目標】

社会の基盤施設や経済活動における必須の道具から、個人での情報活用のための文房具に至るまで、情報システムは私たちの生活に深く入り込んでいる。この講義では、こうした情報システムを、人・情報・コミュニケーション・ネットワーク・社会などとの関連で捉えていきたい。

前半部では、情報システムの一般的な基礎知識と社会での活用形態や開発方法などに関して講義する。また、情報システムの利用者として身につけるべき情報セキュリティや倫理についても解説する。後半部では、情報システムの観点から、人と情報、コミュニケーションとネットワークなどについて理解を深め、情報システムと社会との関わりを探る。

【講義計画】

1. システムとは
2. 情報システムとは
3. 情報システムの利用形態
4. 情報システムの実例
5. 情報システムの変遷
6. 情報システム技術
7. 情報システムの開発形態
8. 情報システム技術の将来展望
9. 情報セキュリティ
10. 情報システムと倫理
11. 情報と人間の関わり
12. 情報とネットワーク
13. 情報ネットワークとコミュニケーション
14. 情報システムとインターネット
15. 情報社会におけるコミュニケーション

【成績評価の方法】

試験の成績により評価する。

【教科書】

川合 慧 監修・駒谷昇一 編著 情報と社会 オーム社

【参考文献】

神沼 靖子 編著「情報システム基礎」オーム社
川合 慧 監修・河村一樹 編著「情報とコンピューティング」オーム社

さ
行

科 目 名			
情報と職業			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	小 林 利 臣

【講義概要・学習目標】

教科「情報」を教えることを考えている人、および情報に関わる職業につくことを考えている人を対象に

情報システムとはなにか

情報システムと情報化社会のかかわり

企業活動におけるビジネスモデルとそれを支える情報システム

情報関連分野における職業観（法律、資格、倫理なども含む）

を理解してもらうことを目標とする。

情報システムの進展によって、社会・ビジネスの「あり方・ありよう」は大きく変化している。変化する情報化社会で生きていくためには、変化の本質、今後どう変化していくかを理解できなければならない。

情報に関わる職業につき、仕事していくには、単に「情報に関する知識」を身に付けるだけでは不十分であり、「情報に関する考え方」を身に付ける必要がある。本講義では「考える」こと身に付けたいと考える人向けに構成している。

【講義計画】

第1部（情報システムの進展による社会の変化）では、コンピュータ・情報システムの進展、およびインターネットの出現を背景に、「社会がどう変化し」、「情報に関わる職業の雇用状況がどう変化しつつあるのか」を学ぶ。

1. 情報システムとは
2. 情報システムの進展
3. インターネットの出現とその影響（1）
4. インターネットの出現とその影響（2）

第2部（情報ビジネスと職業）では、さらに詳しく企業における情報システムの活用、およびビジネスモデルの変化を調べ、「情報に関わる職業にはどんな職種があるのか」、一般企業に就職した場合「情報システム利用者として情報とどう関わりをするのか」を学ぶ。

5. 企業における情報システムの活用－基幹システム（1）
6. 企業における情報システムの活用－基幹システム（2）
7. 企業における情報システムの活用－情報システム導入の考え方
8. 企業における情報システムの活用－情報系システム
9. 企業情報システムの新しい方向－EC
10. 企業情報システムの新しい方向－SCM
11. 企業情報システムの新しい方向－企業経営へのインパクト
12. 新しいビジネスモデル－ビジネスモデルとは
13. 新しいビジネスモデル－ビジネスモデルの研究（1）
14. 新しいビジネスモデル－ビジネスモデルの研究（2）
15. 情報関連の職業－新しい職種の出現
16. 情報関連の職業－雇用形態の多様化
17. 情報関連の職業－企業研究演習
18. 情報管理技術－情報技術
19. 情報管理技術－管理技術

第3部（職業としての情報教育）では、教科「情報」を教えることを考えている人のために、教科「情報」の概要・授業計画を調べ、「教科「情報」教育者としての心構え」を学ぶ。

20. 教科「情報」の概要
21. 教員としての心構え

第4部（情報化社会と個人）では、企業における会社組織と個人の関係、および情報化社会における法制度などを学び、「情報関連分野における職業観」を涵養する。

22. 企業における会社と組織と個人の関係
23. 情報化社会での生き甲斐
24. 就職活動と情報
25. 法律と情報倫理
26. これからの情報化社会

【成績評価の方法】

講義時の課題・レポート、および期末試験で、評価する。

【教科書】

特になし。毎回講義時に資料を配布する。

【参考文献】

近藤勲編著『情報と職業』丸善（2002）

澁澤健太郎他著『情報教育のための基礎知識』NTT出版（2003）

科 目 名			
職業指導			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	<春>植 田 勝 美 <秋>柴 田 正 己

【講義概要・学習目標】

職業を選ぶということは、自分の人生を選ぶことでもある。近年、学校を卒業しても進学をしない、就職もしない。また、離職して次の就職先が見つからなかったりして、アルバイトとして働いている若者がふえている。中学校・高等学校の教育や進路指導のあり方にもさまざまな要因があるのではないだろうか。この講義では、職業指導の現状や問題点をあげて、学校における適切な進路指導について考察する。また、職業指導を行うための基礎的な知識・技術の修得を目標とする。

【講義計画】

◆春学期

1. 職業の意義と選択
2. 職業指導と進路指導
3. 学校現場における進路指導
4. 進路指導の課題と展望

◆秋学期

1. 産業社会の職業構造
2. 個人の人生選択と進路指導
3. 近代化遺産の調査・研究の現況
4. 戦争遺産の調査研究の現況

【成績評価の方法】

通年の授業ではあるが、春学期・秋学期の担当者が異なるので注意する。

春学期及び秋学期それぞれの講義時のレポート、出席状況、などで総合的に評価する。

【教科書】

◆春学期・秋学期

特になし。必要に応じて講義時に資料を配布する。

【参考文献】

◆春学期

仙崎武他編「入門 進路指導・相談」福村出版

◆秋学期

柴田正己他共著「新しさと旧さが競う街」桃山学院大学総合研究所（2004年）

科 目 名			
資料特論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

行政資料、郷土資料、視聴覚資料、および電子資料などについて、その特徴、収集、利用等を解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。

【講義計画】

1. はじめに
- 2-3. 行政資料と図書館
- 4-5. 行政資料と情報公開
- 6-7. 行政資料の保存
- 8-10. 郷土資料と図書館
- 11-12. 視聴覚資料と図書館
- 13-14. 電子資料と図書館
15. まとめ

【成績評価の方法】

出席状況、および講師それぞれの評価を総合して評価する。各講師の評価は、レポート、または授業後の小テストによって行われる。

【備考】

インテグレーション科目

さ
行

科 目 名			
資料分類法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

図書館における資料組織化のうち、主題からのアプローチとして分類と件名について講義する。下記の計画による。

【講義計画】

- 1-2 主題からのアプローチa
- 3-4 「分類」と資料の分類
- 5-8 日本十進分類法
- 9-12 分類規程と各類概説
- 13-14 別置法と「図書記号」法
- 15-16 書架での配列（配架）
- 17-18 図書以外の資料分類
- 19-20 主題からのアプローチb
- 21-23 分類目録
- 24-26 件名目録
- 27-28 件名典拠ファイル

【成績評価の方法】

テスト（70%）、レポート（20%）、出席（10%）

【教科書】

木原通夫・志保田務・高鷲忠美『資料組織法:』第6版 第一法規

科 目 名			
資料分類法演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	1単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

資料組織演習のうち、主題検索に関するところを演習する。まず主題によるアプローチを概説したのち、分類概念を把握し、主要な資料分類法、件名表目録、シソーラスについて学ぶ。そのうえで、日本で汎用される分類表・日本十進分類法の解説をし、また、同様に基本件名標目表について解説する。そのうえで、分類記号の付与、シソーラスの適用に関して演習する。

【講義計画】

- 1-2 主題によるアプローチ（概説）
- 3-4 分類概念
- 5-6 主要分類表
- 7-8 主要件名標目表目録、シソーラス
- 9-10 日本十進分類法概説
- 11-12 日本十進分類法 補助表
- 13-14 日本十進分類法 分類規程
- 15-16 日本十進分類法 各類概説
- 17-22 分類記号付与の実際
- 23-26 基本件名標目表による件名作業、シソーラス適用の実際
- 27-28 まとめ

【成績評価の方法】

テスト（70%）、レポート（20%）、出席（10%）

【教科書】

木原通夫・志保田務・高鷲忠美『資料組織法:』第6版 第一法規

【参考文献】

図書館の指定図コーナーを見てください。

【備考】

テキストはマニュアルを兼ねているので、これを保有することは必須要件。毎授業携帯すること。